

2026年2月期 第3四半期

決算説明会

2026年1月8日



イオンフィナンシャルサービス

証券コード 8570(東証プライム・その他金融)

- 1 2026年2月期 第3四半期決算概要**
- 2 2026年2月期 業績予想及び配当予想**
- 3 重点実施事項**
- Appendix**

2026年2月期 3Q累計期間 連結業績ハイライト

	連結	YoY	国内	YoY	国際	YoY	25年度通期 連結見通し	進捗率
営業収益	4,215 億円	108 %	2,483 億円	110 %	1,752 億円	107 %	5,700 億円	74 %
営業利益	417 億円	110 %	136 億円	111 %	279 億円	110 %	570 億円	73 %
経常利益	422 億円	108 %	—	—	—	—	570 億円	74 %
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	144 億円	105 %	—	—	—	—	210 億円	69 %

2026年2月期 3Q会計期間(3ヶ月間) 連結業績ハイライト

	連結	YoY	国内	YoY	国際	YoY
営業収益	1,434 億円	108 %	830 億円	106 %	605 億円	109 %
営業利益	133 億円	124 %	41 億円	149 %	91 億円	117 %
経常利益	130 億円	110 %	—	—	—	—
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	57 億円	161 %	—	—	—	—

3Q累計期間 連結決算サマリ

連結有効IDは5,838万人(期首差+266万人)、取扱高・営業債権残高の拡大に寄与
金利上昇に伴う調達コストは増加も、貸倒関連費用等の増加抑制により增收増益を達成

資産収益性の向上

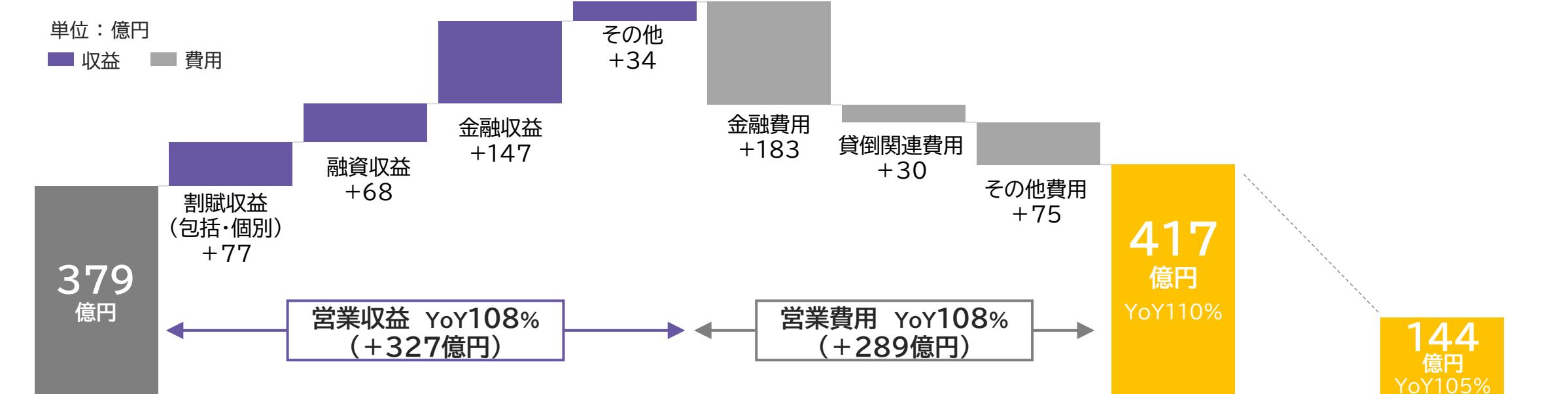
- ・高利回り債権残高※が拡大
国内高利回り債権比率は17%に回復
国内 : 8,032億円(YoY101%)
国際 : 1兆1,599億円(YoY116%)

生産性の向上

- ・国内・金利環境変化に伴い金融収益拡大
- ・イオン・アリアンツ生命(株)の譲渡による収益減少に対し、ポイント事業等の国内外での役務収益の拡大がカバー

費用コントロール

- ・国内預金の拡大による金融費用増
- ・AI等の活用による、与信・回収精度の向上による貸倒関連費用、人件費の増加を抑制



国内事業

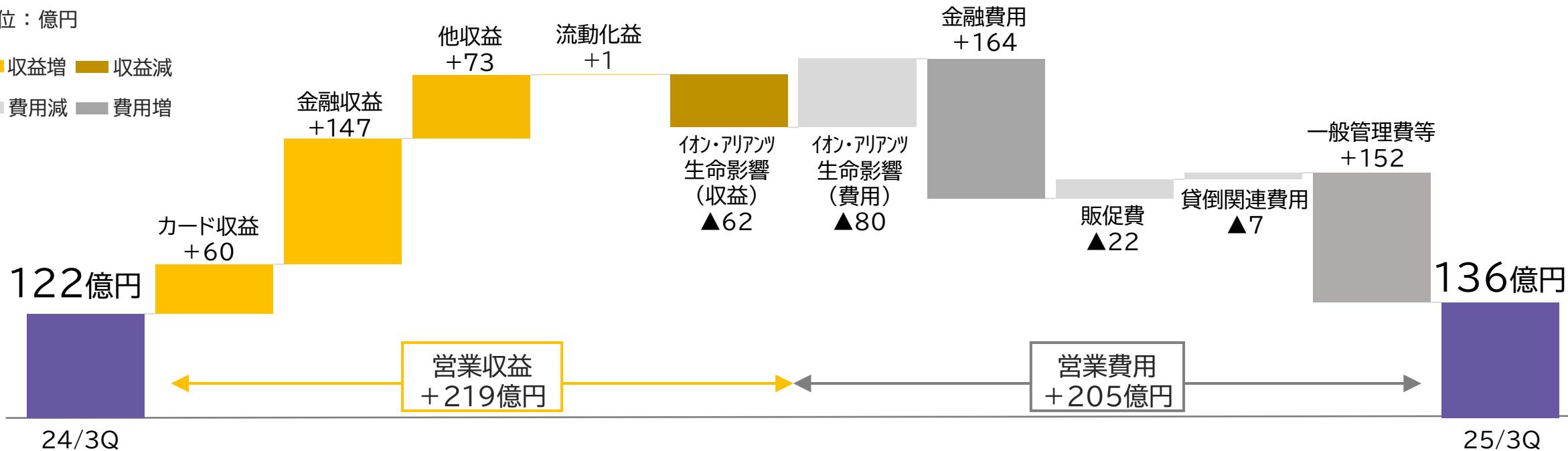
[国内] 3Q累計期間 営業利益 前期差内訳

- ・銀行業における金融収益が増加 一方、預金利息や一般管理費の増加等により営業利益は+13億円

単位：億円

■ 収益増 ■ 収益減

■ 費用減 ■ 費用増



主な内容

[営業収益]

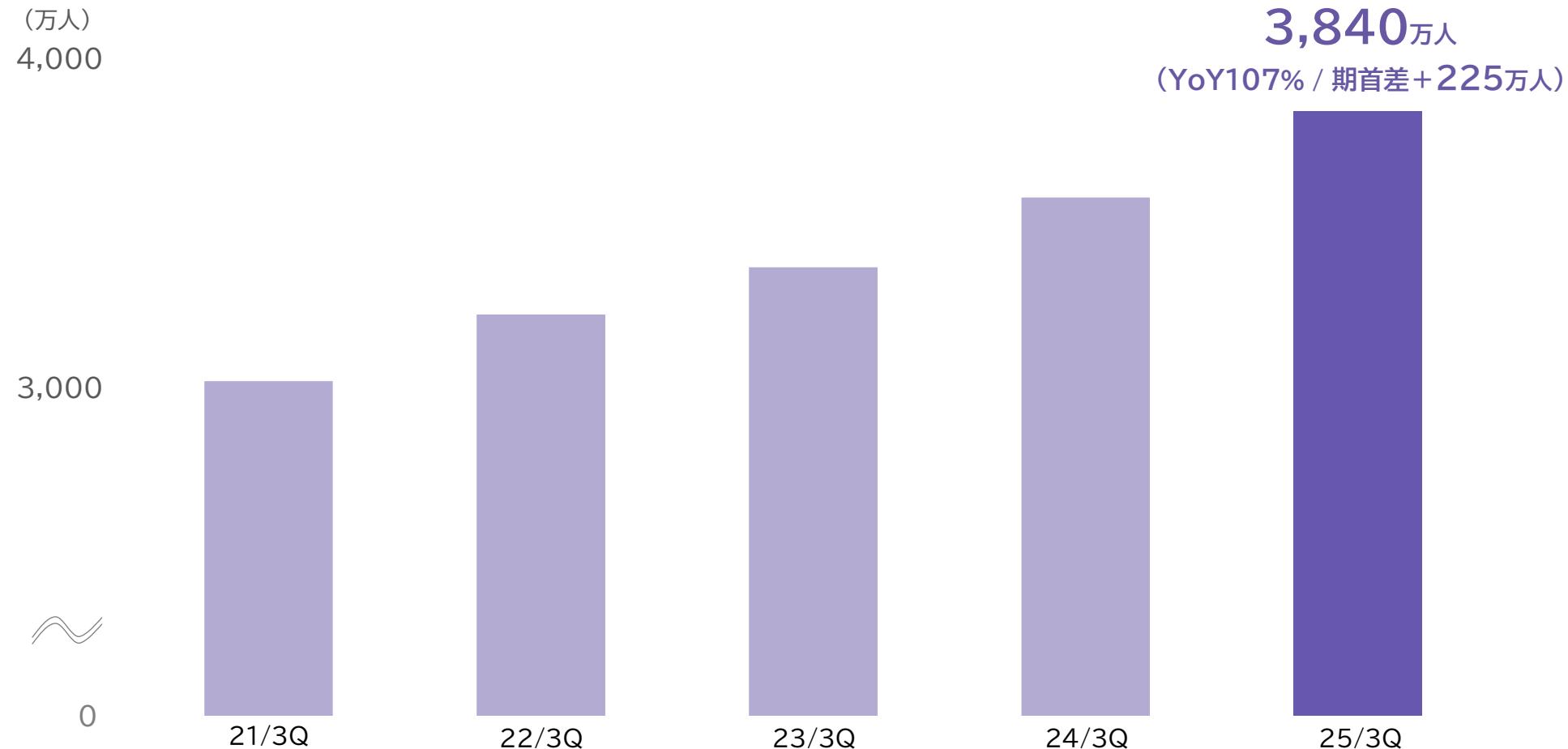
- ・カード収益 +60億円
(包括信用購入あっせん収益+43億円、融資収益+16億円)
- ・金融収益 +147億円
(利息・配当+76億円、貸出金利息+38億円、
日銀当座預け金利息+15億円、有価証券売却益+3億円)
- ・他収益 +73億円
(役務取引収益+65億円)

[営業費用]

- ・金融費用 +164億円
(預金利息+96億円、国債等のリバランス+44億円、金利スワップ利息+15億円)
- ・販促費 ▲22億円 (科目変更影響除き※ +6億円)
- ・一般管理費等 +152億円 (科目変更影響除き※ +123億円)
(システム運営費+43億円、支払手数料+42億円、人件費+11億円)

※今期より一部費用の計上を、販促費から一般費に変更

- コード決済「AEON Pay」のチャージ払い会員を中心に有効IDが拡大（期首差+225万人）

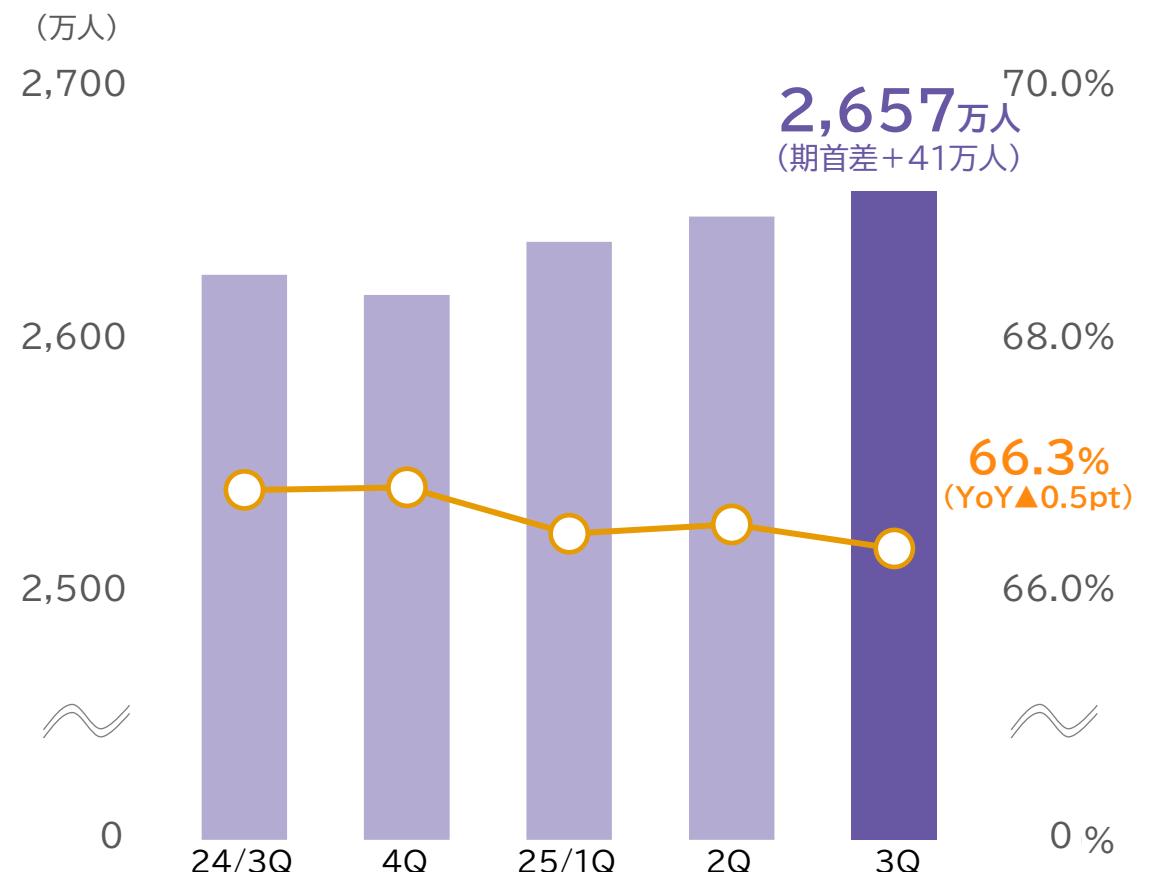


※有効ID：イオンカードやAEON Pay、イオン銀行口座等の当社提供サービス利用の顧客数
※会員が重複する場合は、名寄せして集計

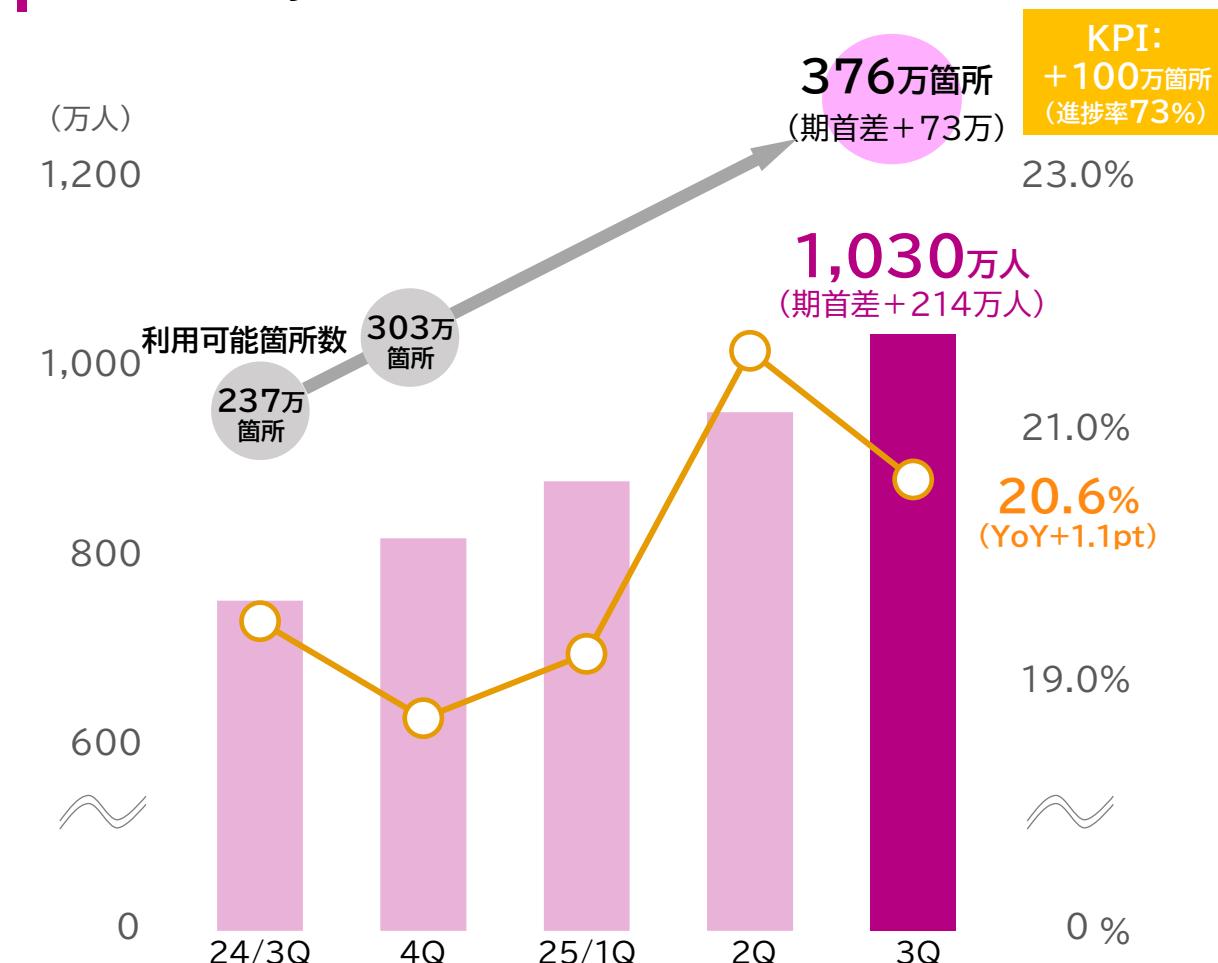
[国内] 顧客基盤 <イオンカード、AEON Pay>

- カード有効会員数は期首より41万人増加
- AEON Payはコンビニ等の利用可能箇所が拡大、会員数は1,030万人

カード有効会員数・稼働率



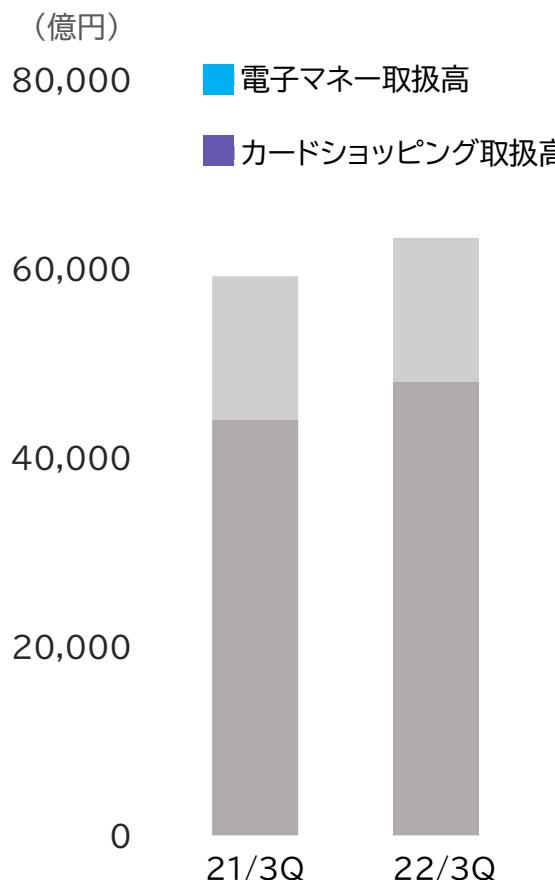
AEON Pay ID登録会員数・稼働率、利用可能箇所数



[国内] 自社決済取扱高

- ・ イオングループでの特典浸透やAEON Pay利用促進により決済取扱高が拡大

自社決済 累計取扱高



7兆3,828億円

(YoY 104%)

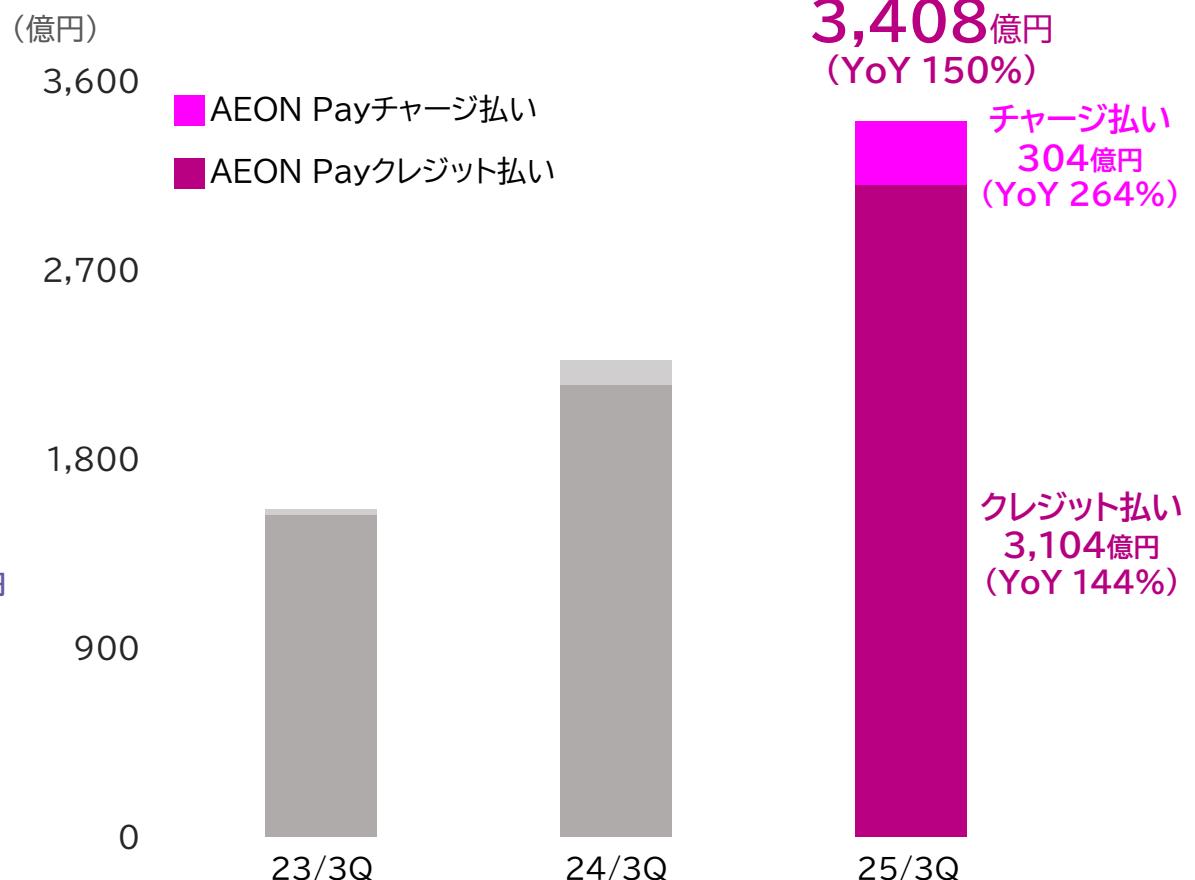
KPI:10兆円

(進捗率74%)

電子マネー
1兆5,111億円
(YoY 99%)

ショッピング
5兆8,717億円
(YoY 106%)

うち、AEON Pay取扱高



3,408億円
(YoY 150%)

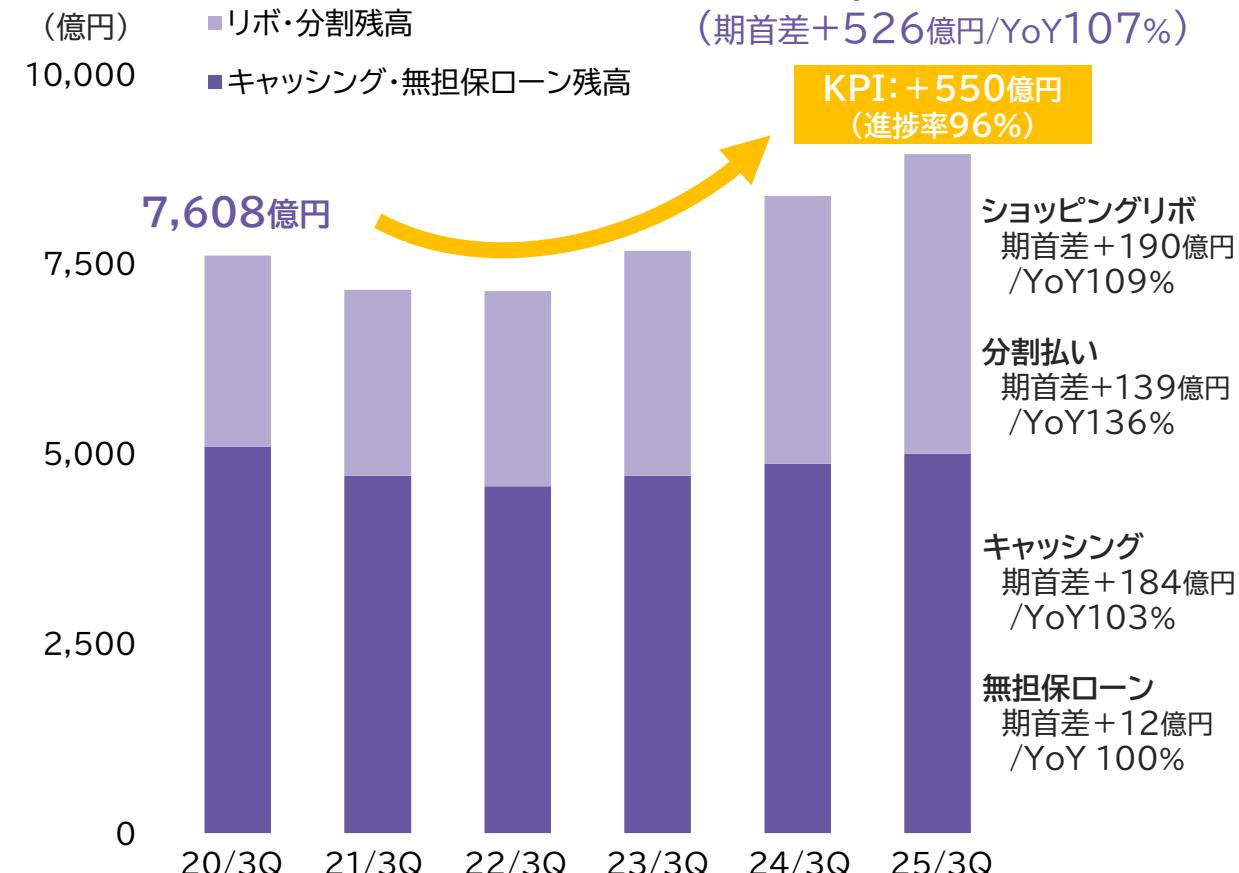
チャージ払い
304億円
(YoY 264%)

クレジット払い
3,104億円
(YoY 144%)

[国内] 高利回り債権残高の状況

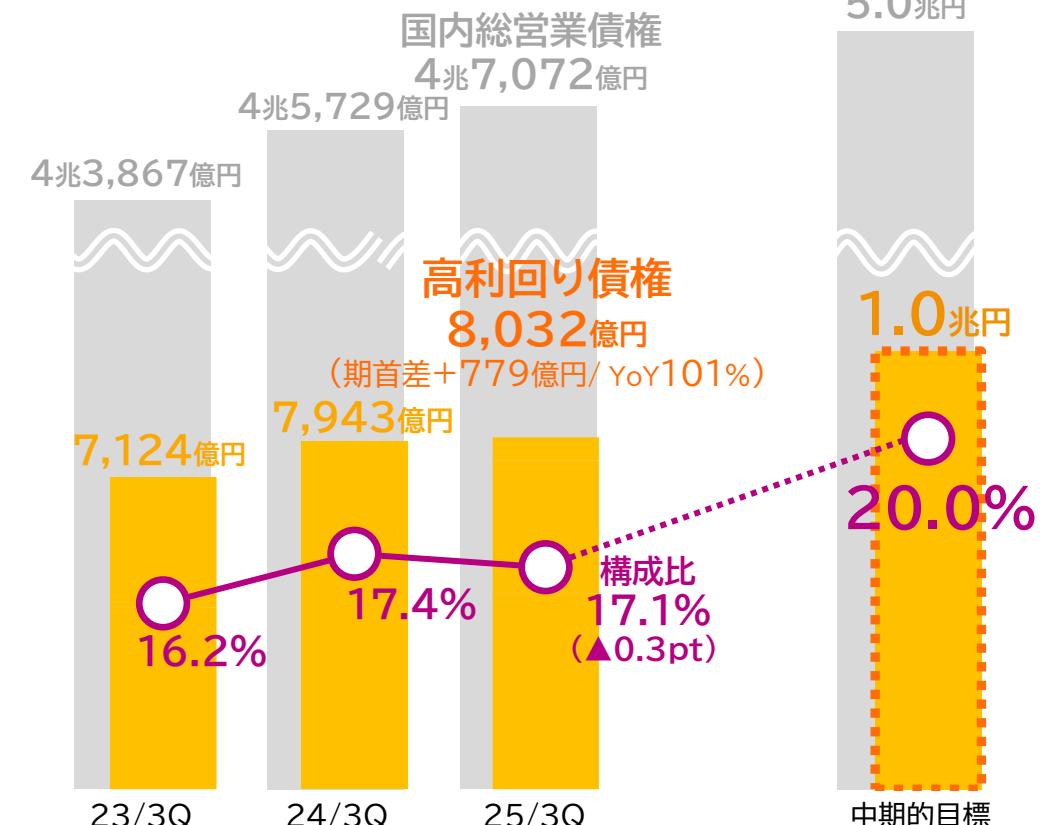
- 高利回り債権比率(流動化実施後)は前期末の債権流動化実施により低下したものの、期首から段階的(1Q末: +0.1pt、2Q末:+0.2pt、3Q末: +0.6pt)に回復

債権流動化前残高推移



高利回り債権比率と残高推移(債権流動化実施後)

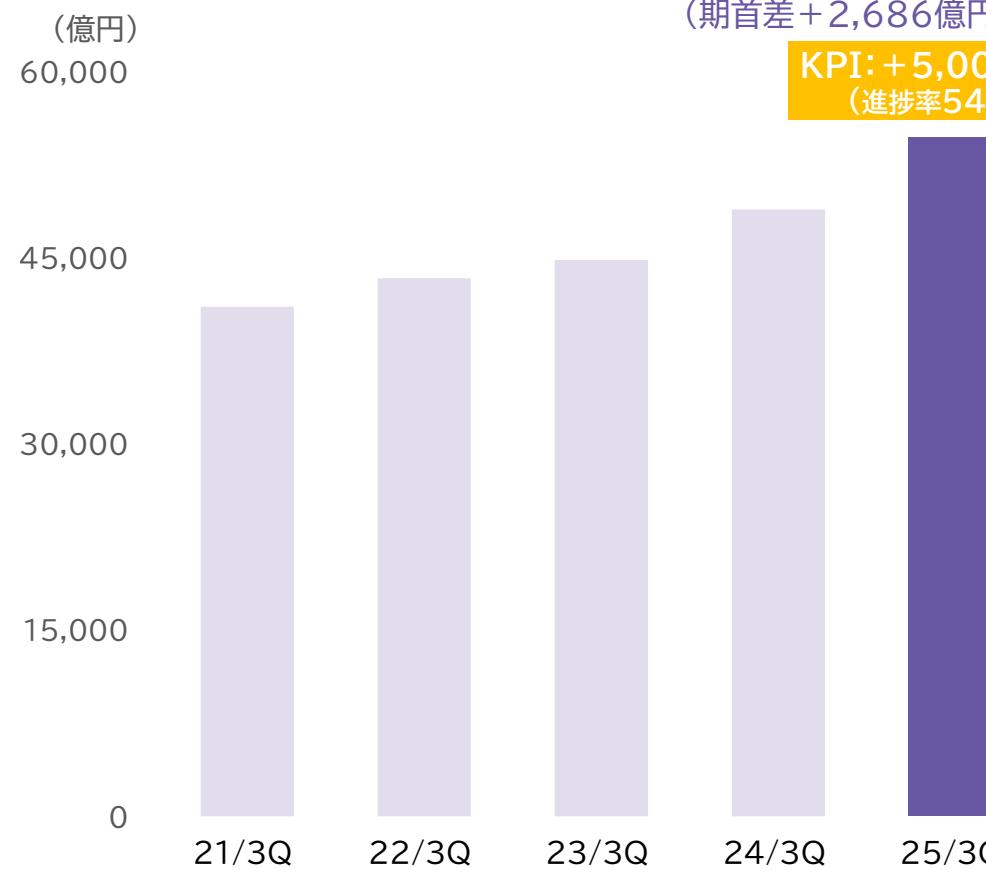
※高利回り債権:リボ・分割、キャッシング、無担保ローン



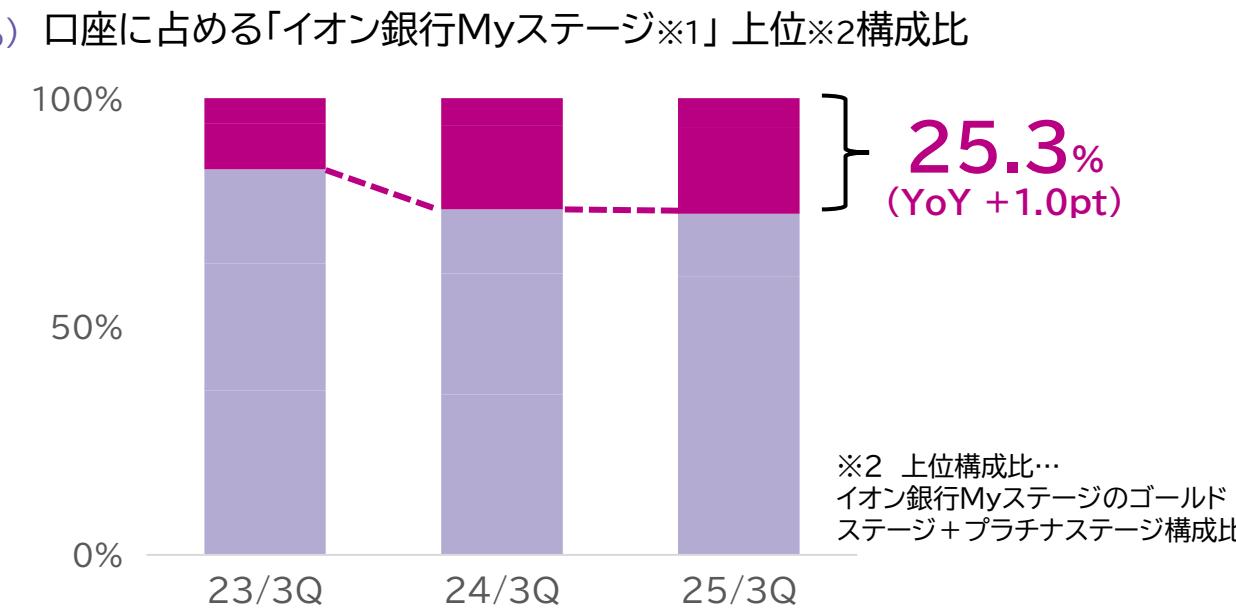
[国内] 銀行預金

- ・預金の獲得ペースは鈍化するも、期首差+2,686億円、YoY112%と安定成長を維持
- ・生活口座化の推進(Myステージ上位構成比YoY+1.0pt)による、普通預金の獲得を進める

イオン銀行預金残高



日常的に利用いただく生活口座化を推進



※1 イオン銀行Myステージ

お取引内容に応じた優遇制度

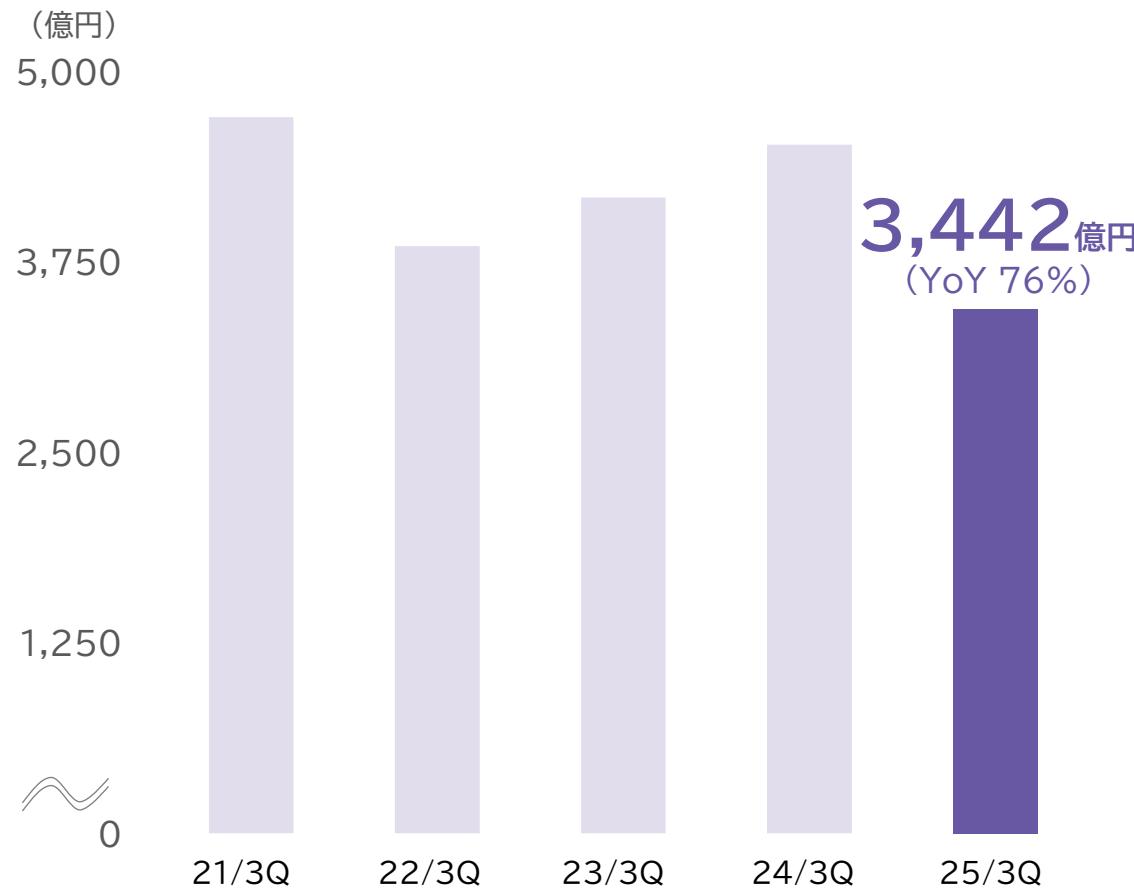
- ①クレジット、WAONの利用実績
- ②住宅ローン/無担保ローン
- ③給与・年金受取口座
- etc...



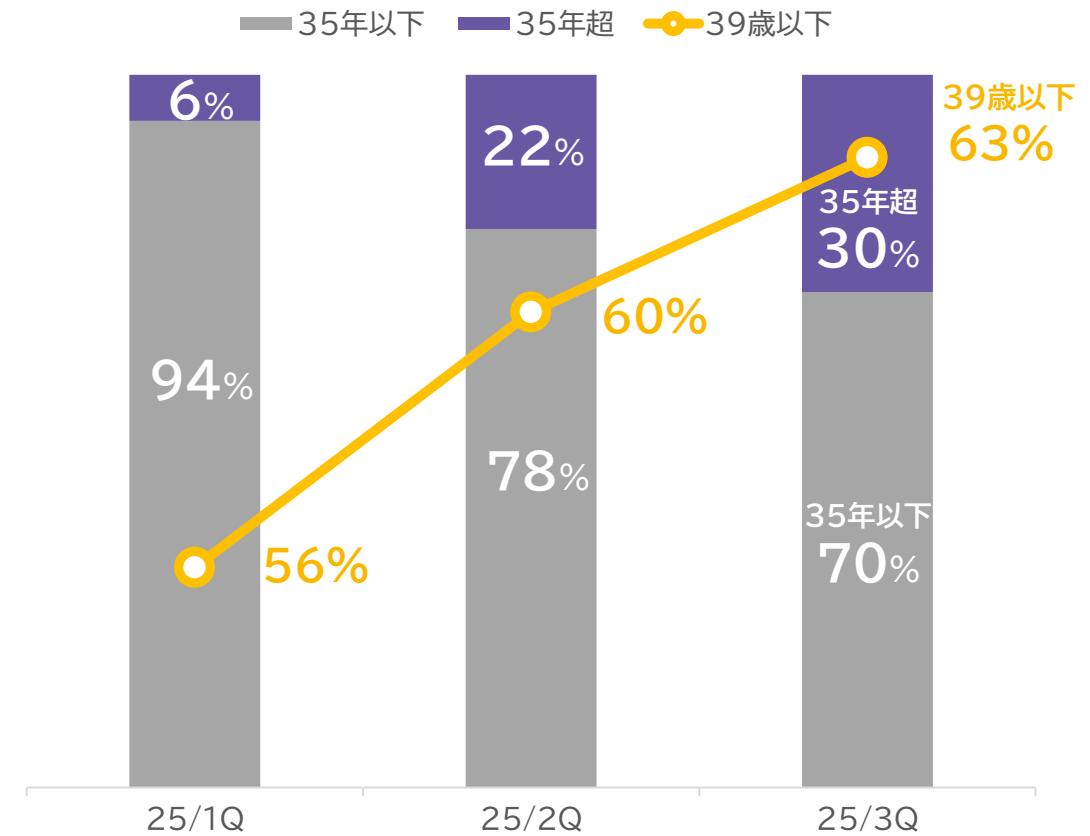
[国内] 住宅ローン

- ・住宅ローン取扱高の前年同期比は、会計期間ごとに回復基調（1Q:53%、2Q:83%、3Q:100%）
- ・4月より開始した35年超長期ローンが拡大 39歳以下の構成比が高まる

住宅系ローン 累計取扱高



住宅ローン※取扱高に占める 35年超・39歳以下比率

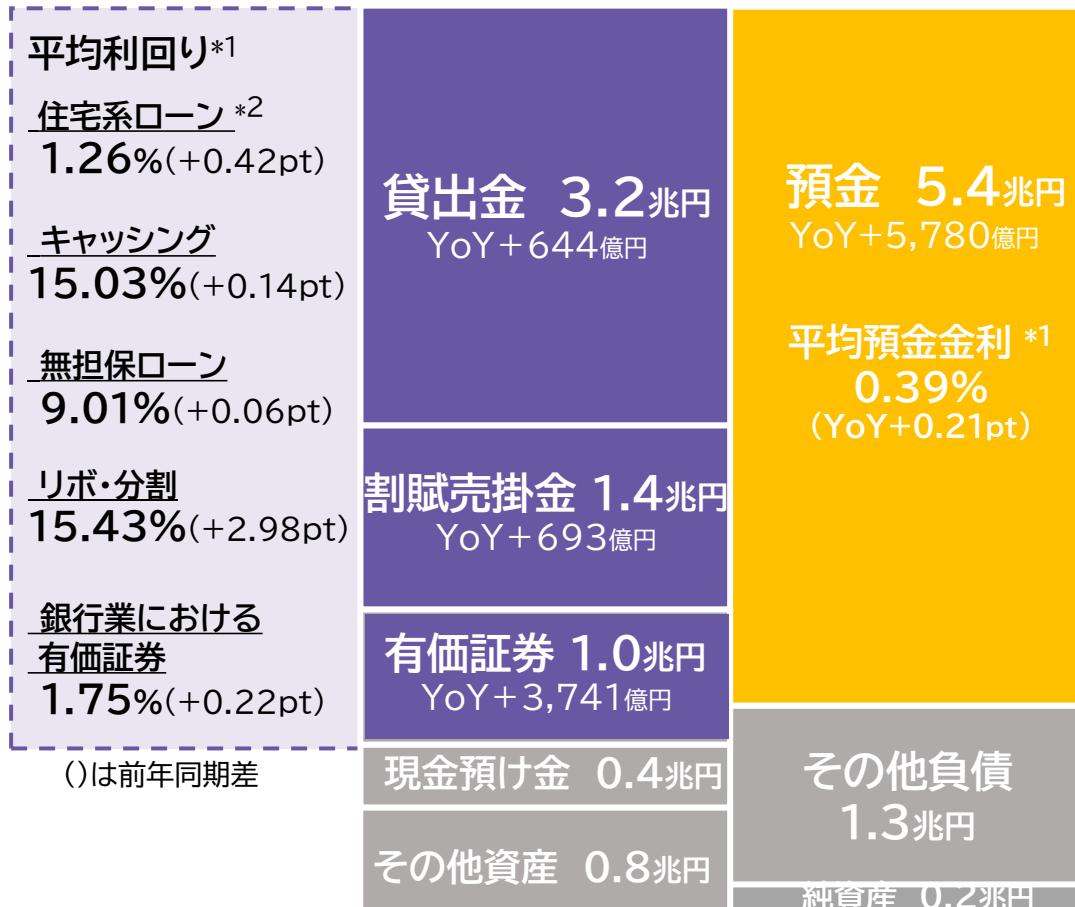


※居住用住宅ローン

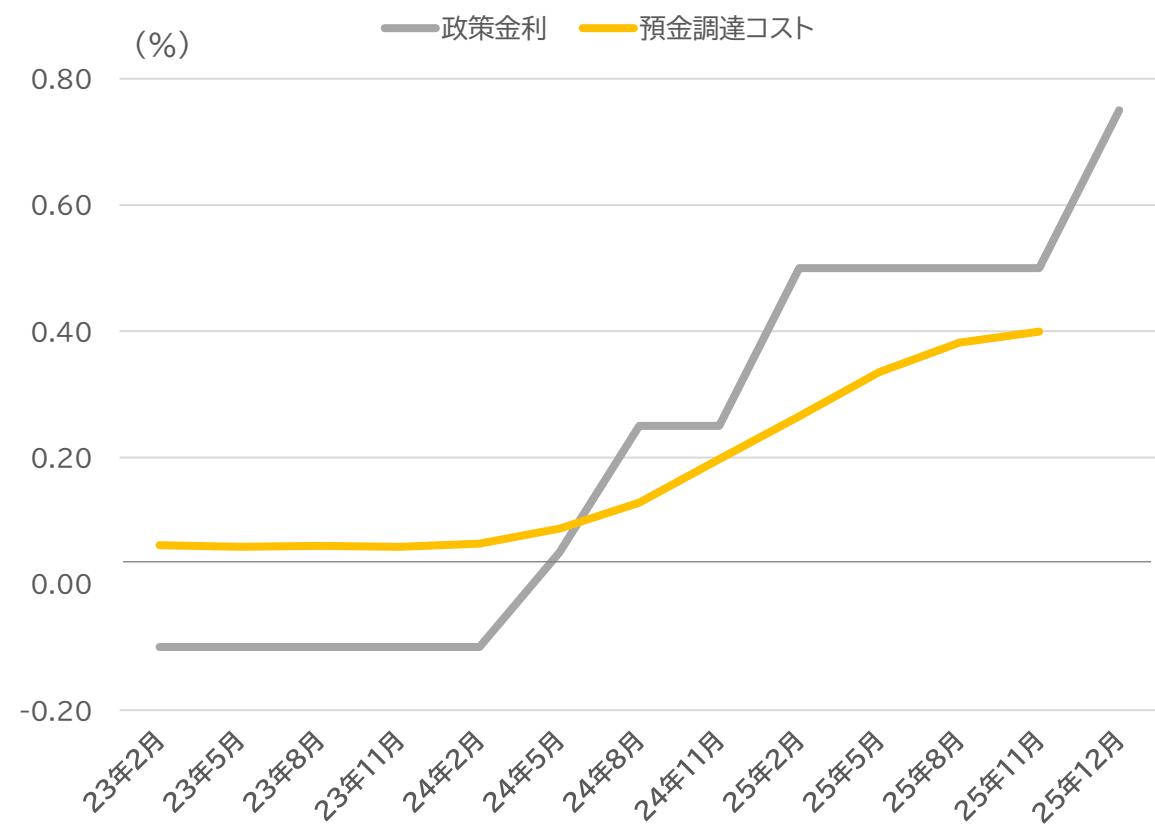
[国内] 預金での資金調達と運用利回り

- イオン銀行の低利な調達機能を活かし、高利回り資産を拡大し収益力を強化

運用の利回り実績



政策金利と預金調達コストの推移



*1 四半期収益又は費用(2025年9月、10月、11月) ÷ 期間平均残高(2025年9月、10月、11月) × 4

*2 居住用住宅ローンと投資用マンションローンの貸出金

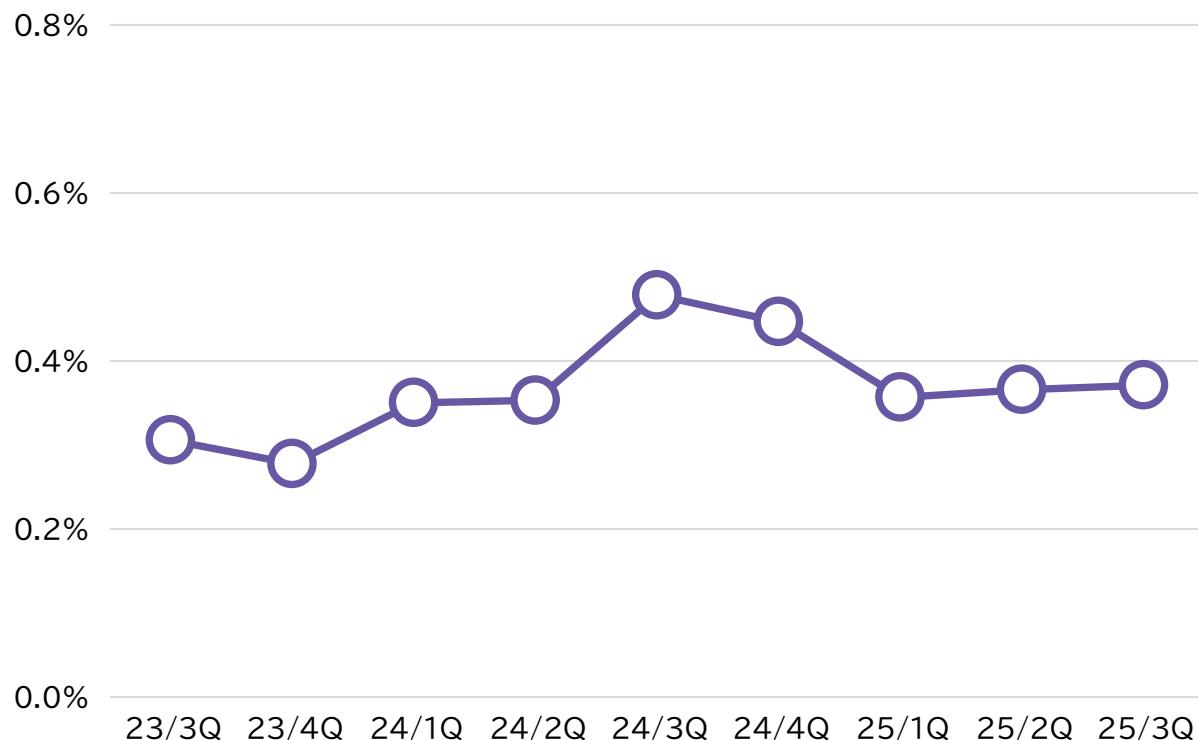
※イオン銀行単体、預金残高は月末時点にて集計
※政策金利は日本銀行公表値を基に作成

[国内] 貸倒関連費用率、人件費率の推移

- ・ 営業債権残高に対する貸倒関連費用率は、引き続き低位で安定
- ・ 3Q会計期間の人件費率はYoYで1.4%低下。DX活用やコスト見直し等による生産性向上に取り組む

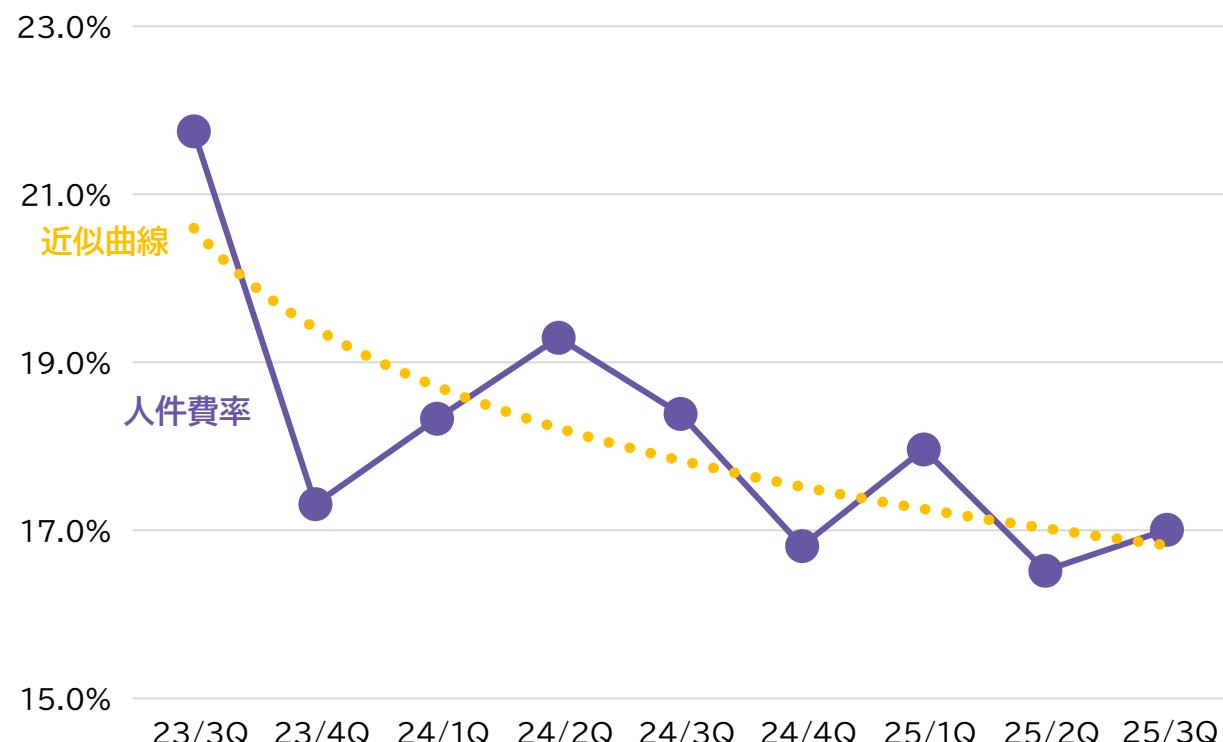
| 貸倒関連費用率の四半期推移

※営業貸付金と割賦売掛金の合計残高に対する貸倒関連費用率



| 人件費率の四半期推移

※人件費/営業収益比率



国際事業

[国際] セグメント別 業績ハイライト

- ・累計期間では、マレー圏の営業利益が増益となり、全エリアで增收増益を達成
- ・3Q会計期間では、タイでの洪水やマクロ環境の悪化に伴う貸倒関連費用増により、メコン圏が減益

3Q累計期間 (9ヶ月間)	国際事業		中華圏		メコン圏		マレー圏	
		YoY		YoY		YoY		YoY
営業収益	1,752 億円	107 %	263 億円	101 %	747 億円	104 %	740 億円	111 %
営業利益	279 億円	110 %	81 億円	127 %	109 億円	106 %	89 億円	102 %
<参考> 貸倒関連費用	573 億円	107 %	58 億円	88 %	260 億円	102 %	254 億円	119 %

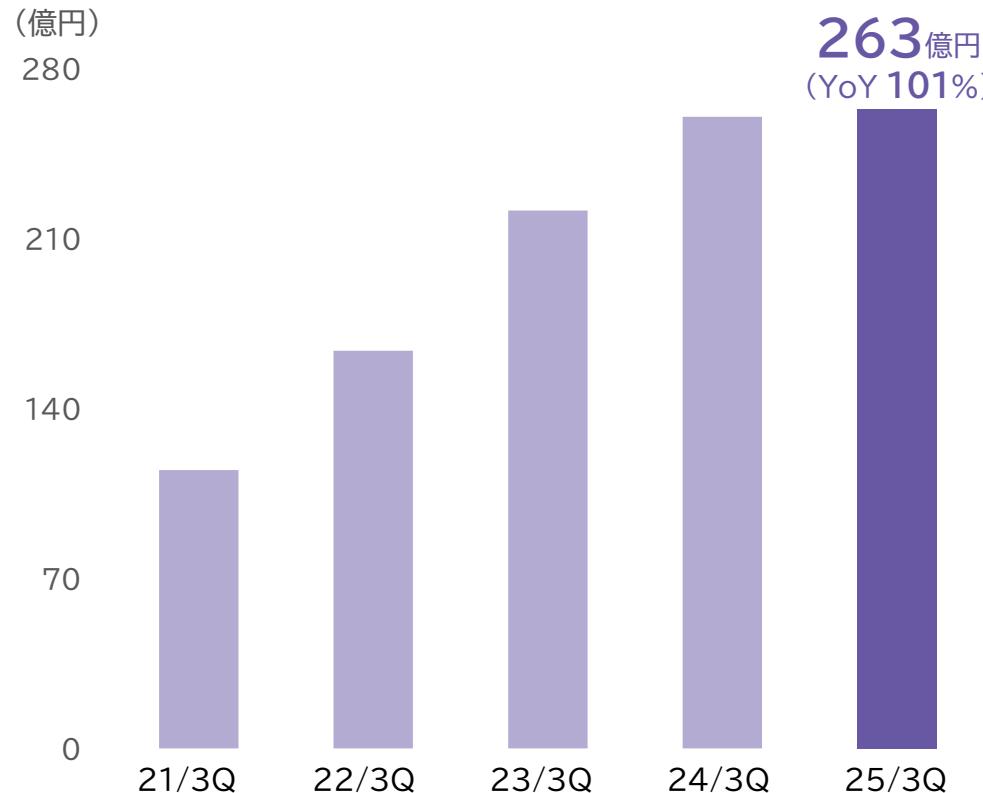
3Q会計期間 (3ヶ月間)	国際事業		中華圏		メコン圏		マレー圏	
		YoY		YoY		YoY		YoY
営業収益	605 億円	109 %	91 億円	105 %	254 億円	107 %	258 億円	113 %
営業利益	91 億円	117 %	28 億円	116 %	29 億円	88 %	33 億円	169 %
<参考> 貸倒関連費用	196 億円	107 %	19 億円	97 %	94 億円	117 %	82 億円	101 %

期中平均レート ※()内は前年同期差

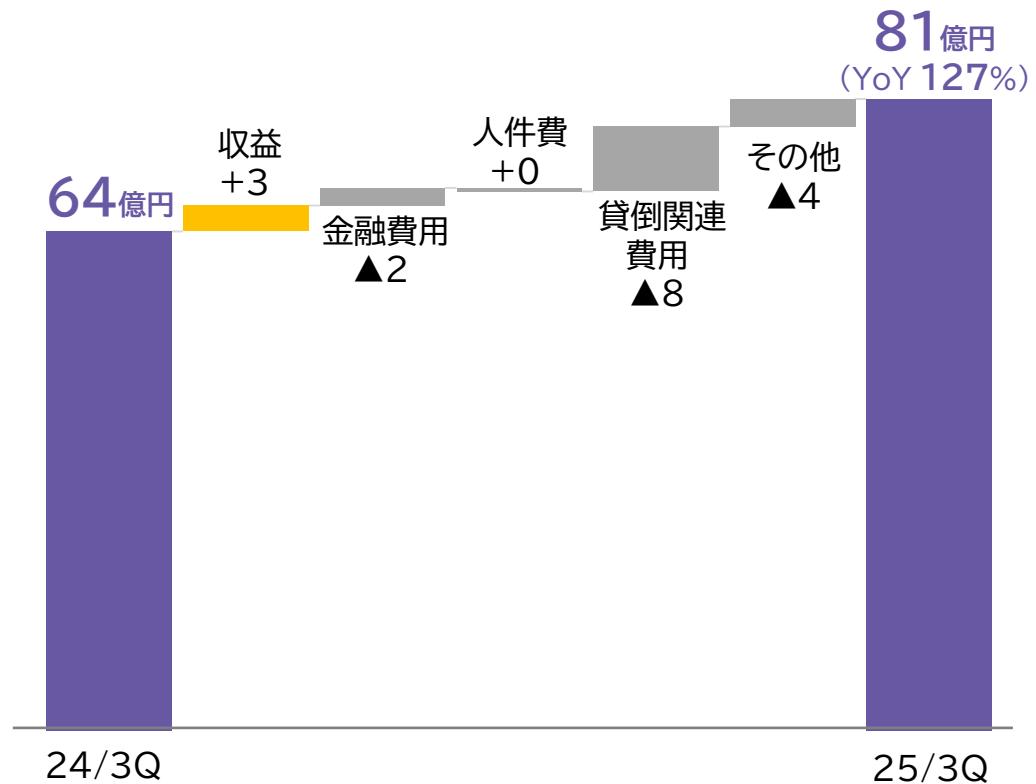
[国際] 中華圏の業績ハイライト

- 審査・途上与信強化により収益は横ばいも、貸倒関連費用や販促費等の費用抑制により増益

営業収益



営業利益前期差内訳



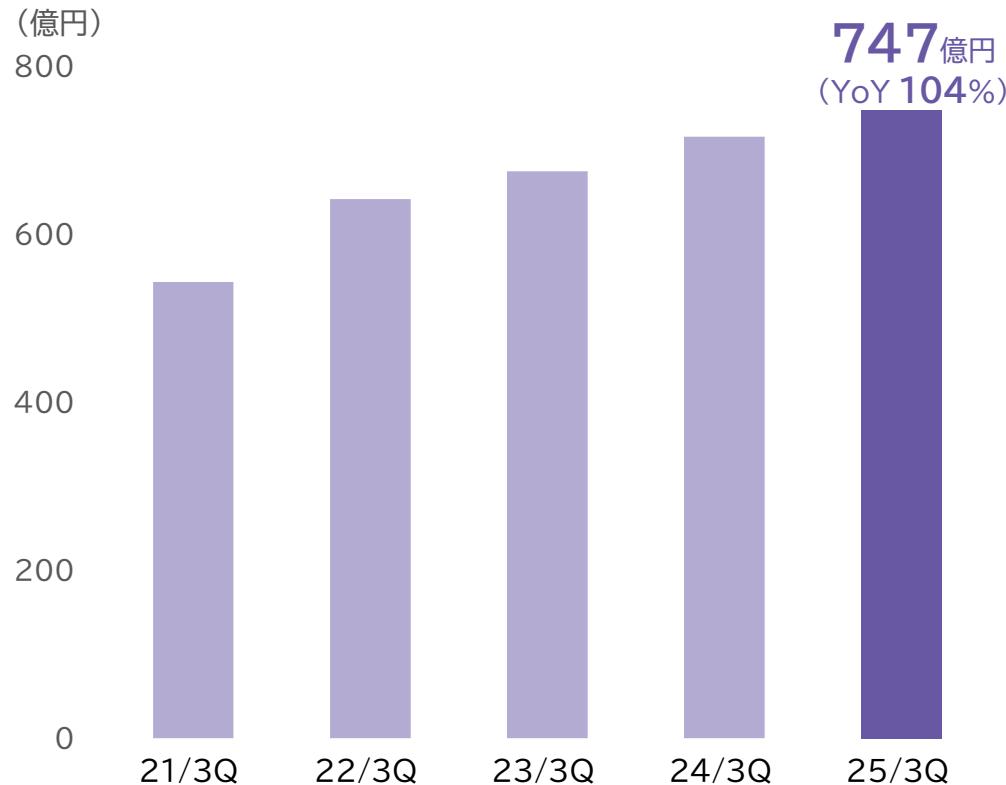
期中平均レート ※()内は前年同期差

HKD : 19.06円(2.2%円高) THB : 4.52円(4.9%円安) MYR : 34.87円(4.2%円安) 18

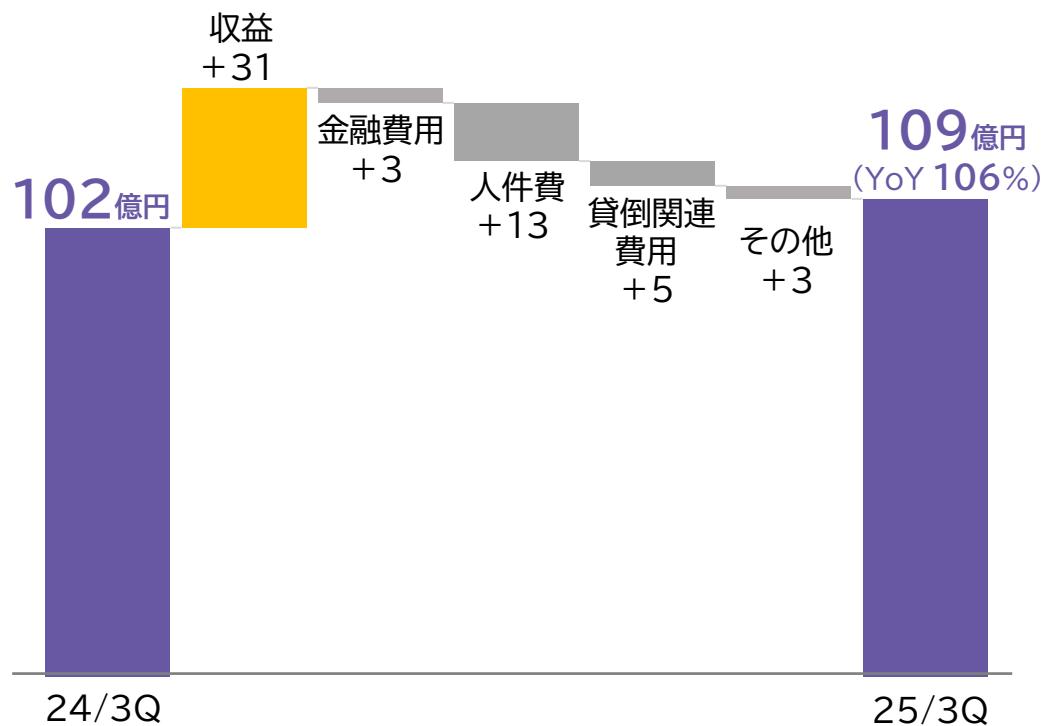
[国際] メコン圏の業績ハイライト

- ・ タイでのマクロ環境悪化の長期化や洪水が影響も、貸倒関連費用の増加を抑制し増益を継続

■ 営業収益



■ 営業利益前期差内訳



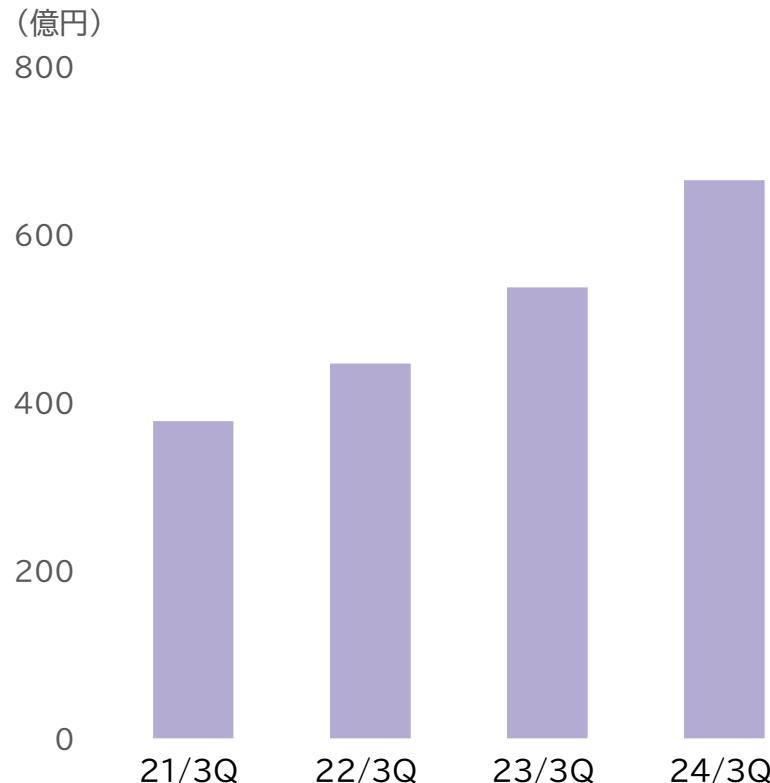
期中平均レート ※()内は前年同期差

HKD : 19.06円(2.2%円高) THB : 4.52円(4.9%円安) MYR : 34.87円(4.2%円安) 19

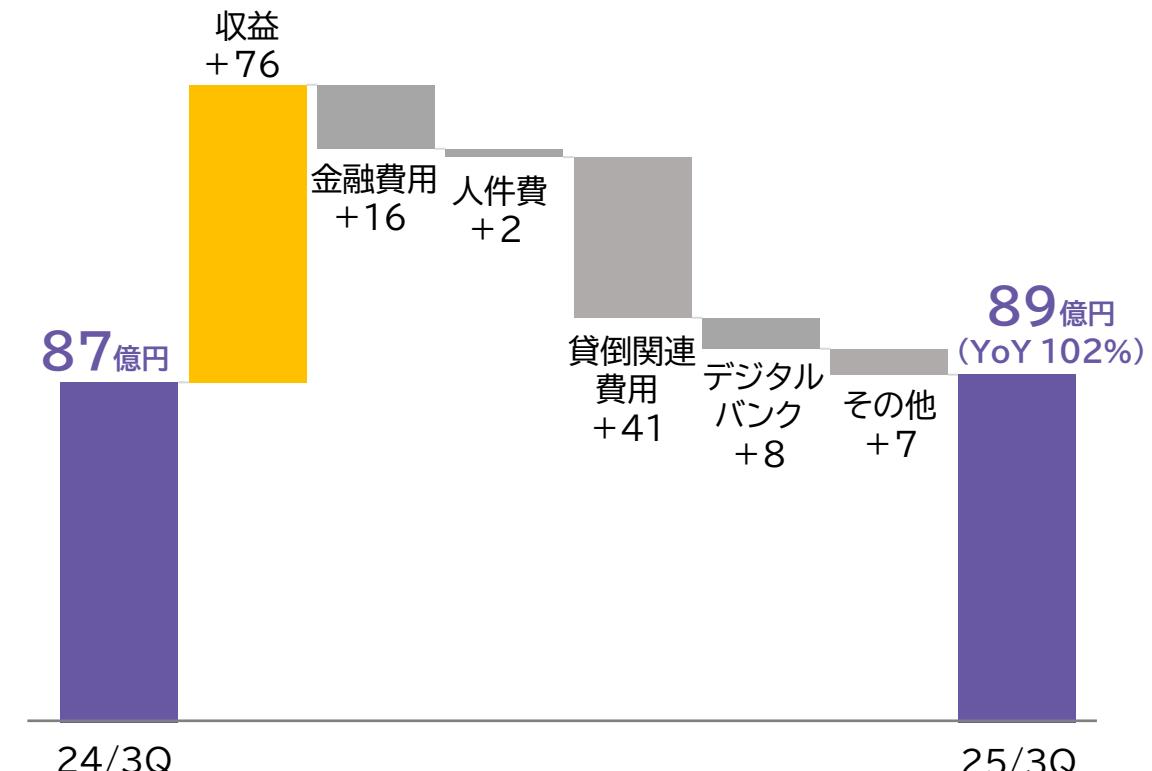
[国際] マレー圏の業績ハイライト

- 中型・大型バイクの個品割賦の取扱高・残高が増加し、収益は2桁成長を継続
- 若年層を中心とした貸倒增加に対する審査厳格化と回収体制強化により、営業利益は増益に転換

営業収益



営業利益前期差内訳



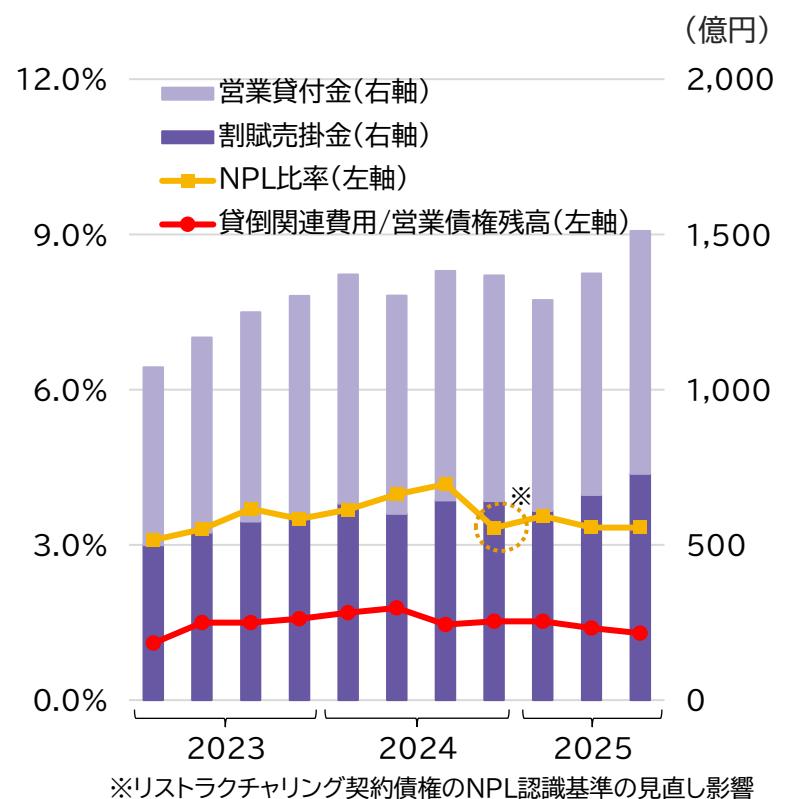
期中平均レート ※()内は前年同期差

HKD : 19.06円(2.2%円高) THB : 4.52円(4.9%円安) MYR : 34.87円(4.2%円安) 20

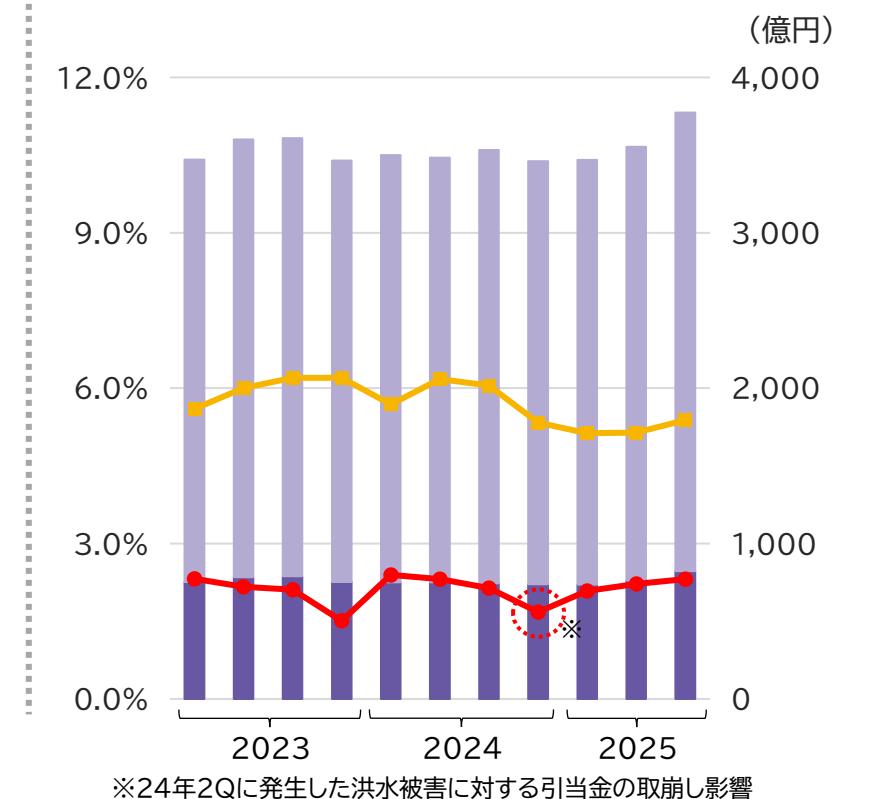
[国際] 上場子会社の債権残高およびNPL推移

- 香港：市場全体の破産申請件数は減少に転換 与信の引締め等により貸倒関連費用率は安定推移
- タイ：マクロ指標の悪化傾向に加え、洪水影響により、貸倒関連費用率、NPL比率ともに上昇
- マレーシア：個人向けローン等の審査厳格化により、貸倒関連費用率は低下

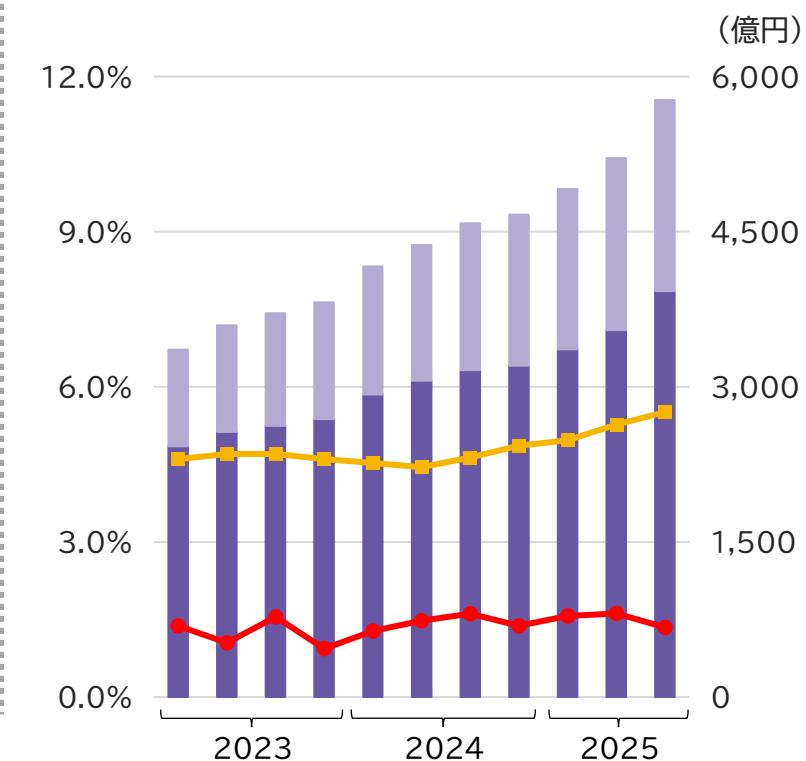
■ ACSA(香港)

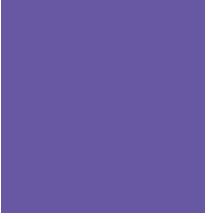


■ AEONTS(タイ)



■ ACSM(マレーシア)

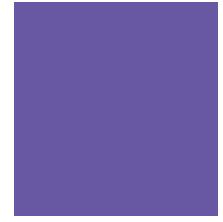




業績予想及び配当予想

2026年2月期 業績予想及び配当予想

	連結	YoY	国内	YoY	国際	YoY
営業収益	5,700 億円	107 %	3,300 億円	105 %	2,400 億円	108 %
営業利益	570 億円	93 %	190 億円	85 %	390 億円	101 %
経常利益	570 億円	91 %		1株あたり配当金		配当性向
親会社株主に 帰属する 当期純利益	210 億円	134 %		中間: 25 円		54.5 %
			年間: 53 円		期末: 28 円	

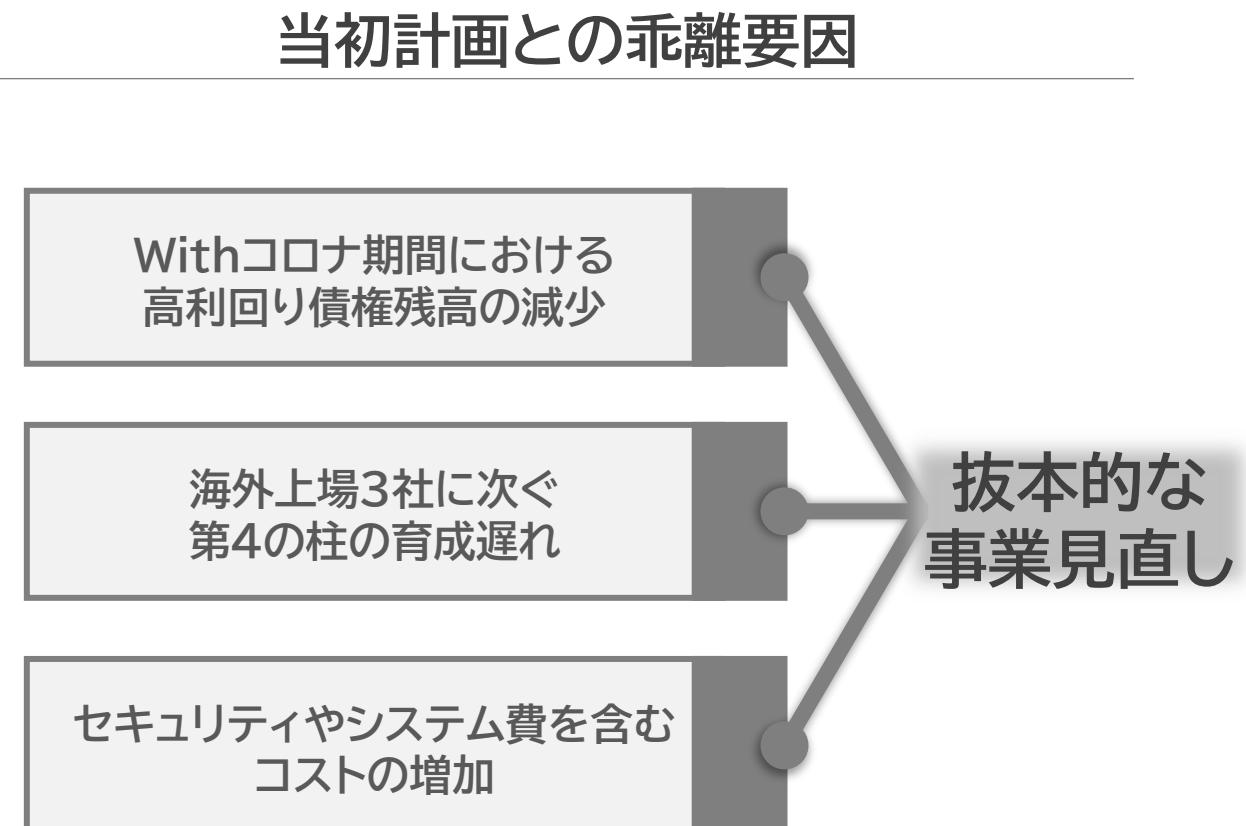
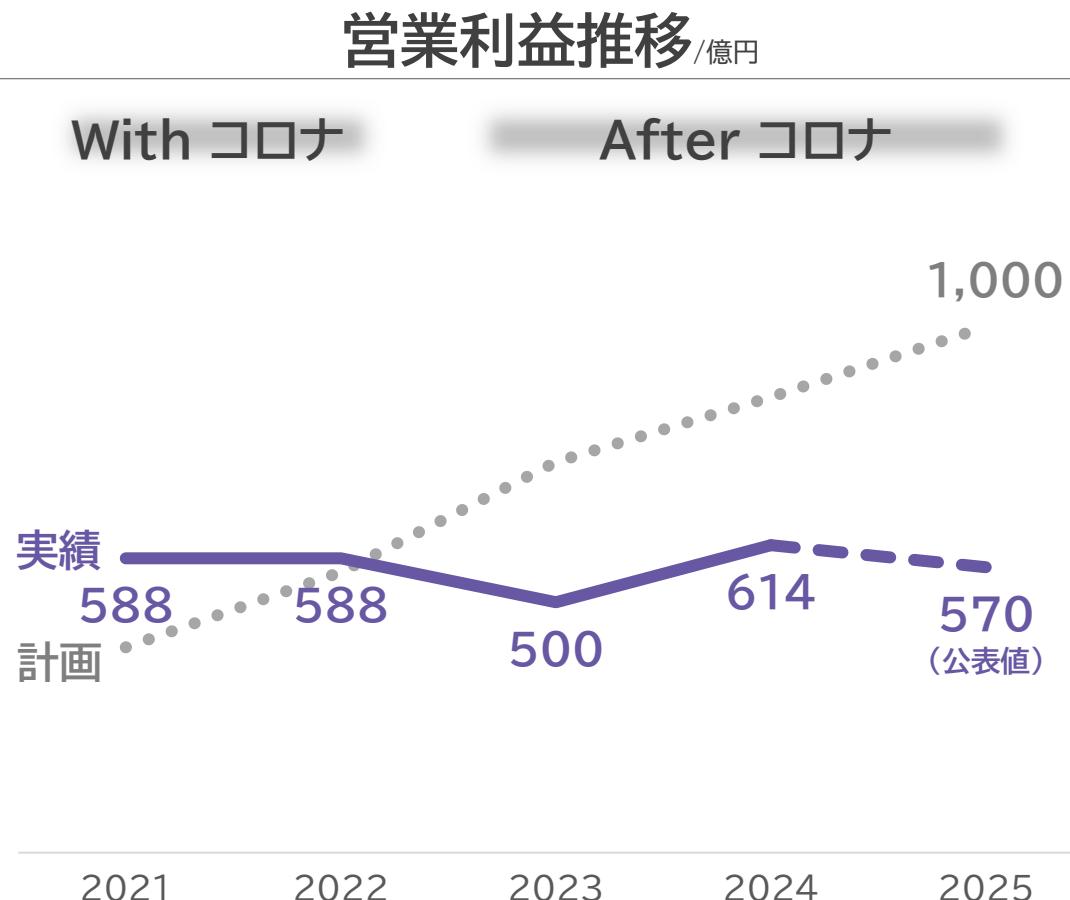


重点実施事項

企業価値向上に向けて

振り返り

- 現・中期経営計画期間での営業利益はほぼ横ばいで推移し、当初計画と大きく乖離
- 資産収益性を重視した事業見直しに大きく転換



次フェーズの方向

- ・次期中計は期末決算にて開示予定、「決済」と「融資」を軸に、小売発の金融事業の再設計を図る

～2025年度

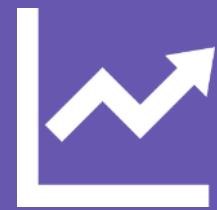
稼ぐ力を高め、成長軌道へ復活

第二の創業： バリューチェーンの革新と ネットワークの創造

- 国内外の事業再編
- 金融政策変更に伴う
銀行の活用強化
- デジタル金融包摂の実行
- イオン生活圏の創造に
向けたインフラ強化



AEON Payへの
経営資源シフト



融資事業の強化



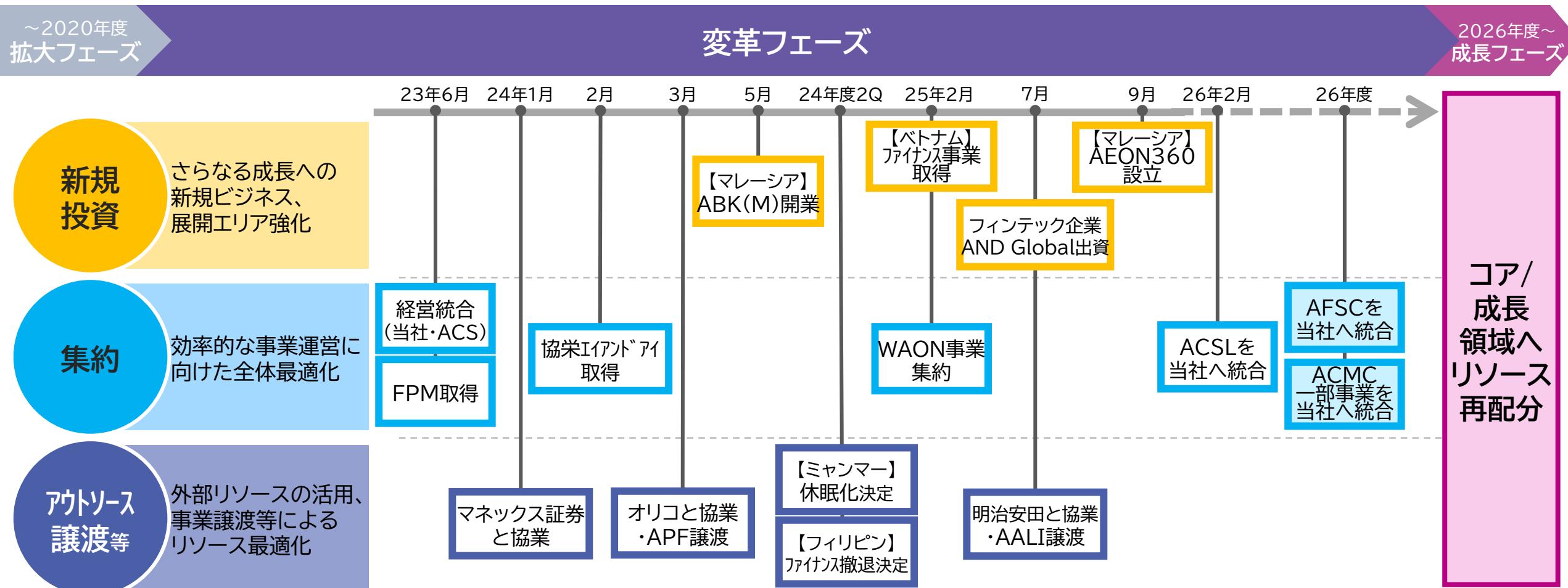
海外事業の再成長

経営基盤

- ・お客さま視点のサービス提供に向けたグループ一体運営強化
- ・ガバナンス及びセキュリティ体制の強化
- ・ローコストオペレーションの徹底

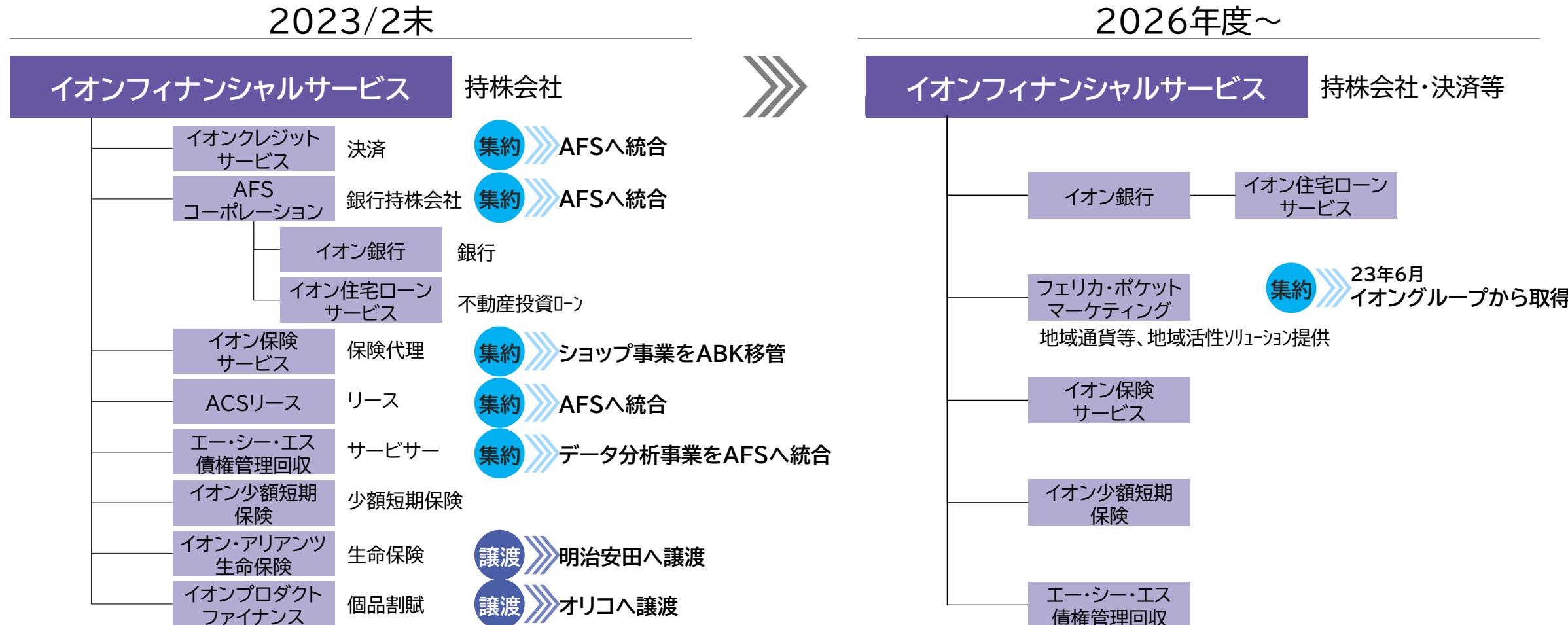
[事業ポートフォリオの見直し] 次フェーズの基盤構築

- ・23年度よりコア/成長領域への経営資源の配分をすすめ、次なる成長への土台構築
- ・事業・業務の集約により、リソース再配分を進める



[国内] コア領域へのリソース集中・実効性の向上

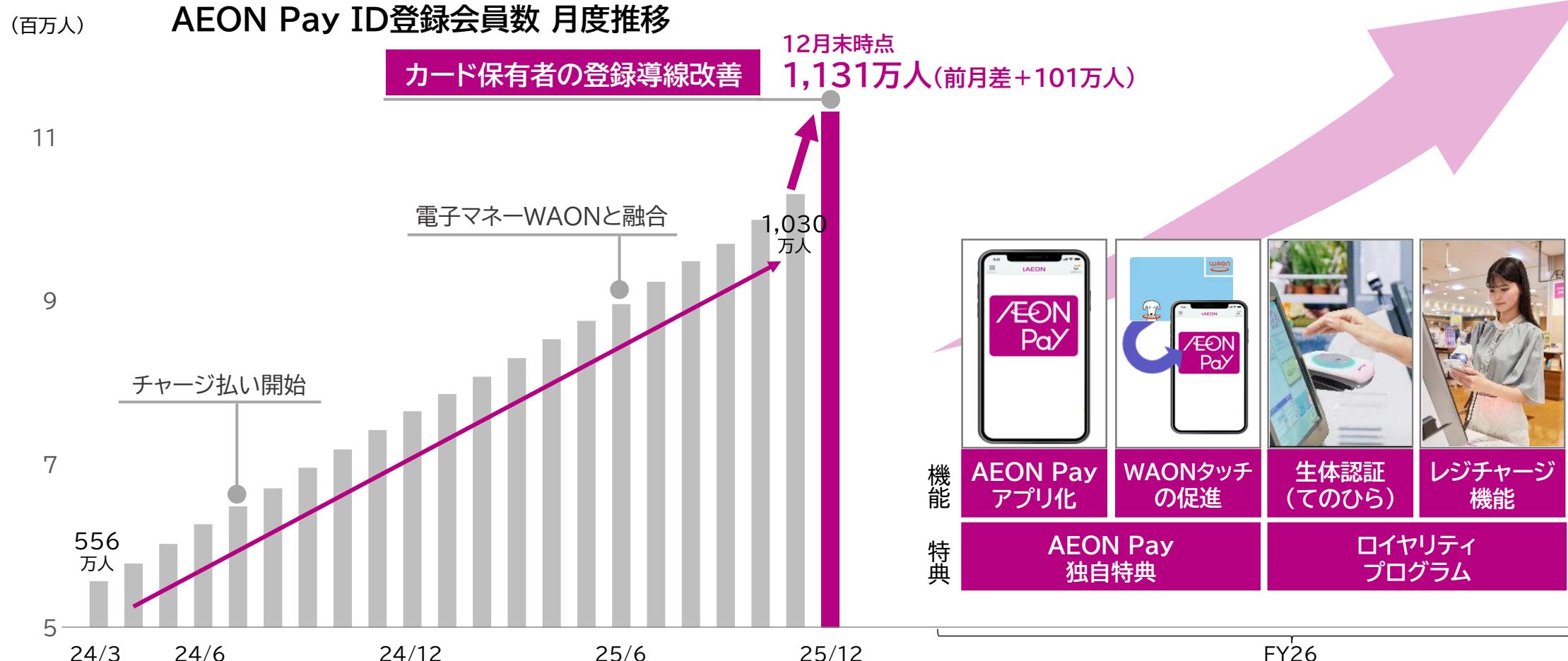
- ・「決済」、「融資」、「銀行」ビジネスへ経営資源の集中を図る
- ・グループ全体のガバナンス強化を図る実効性の高い事業構造へ



収益力の強化

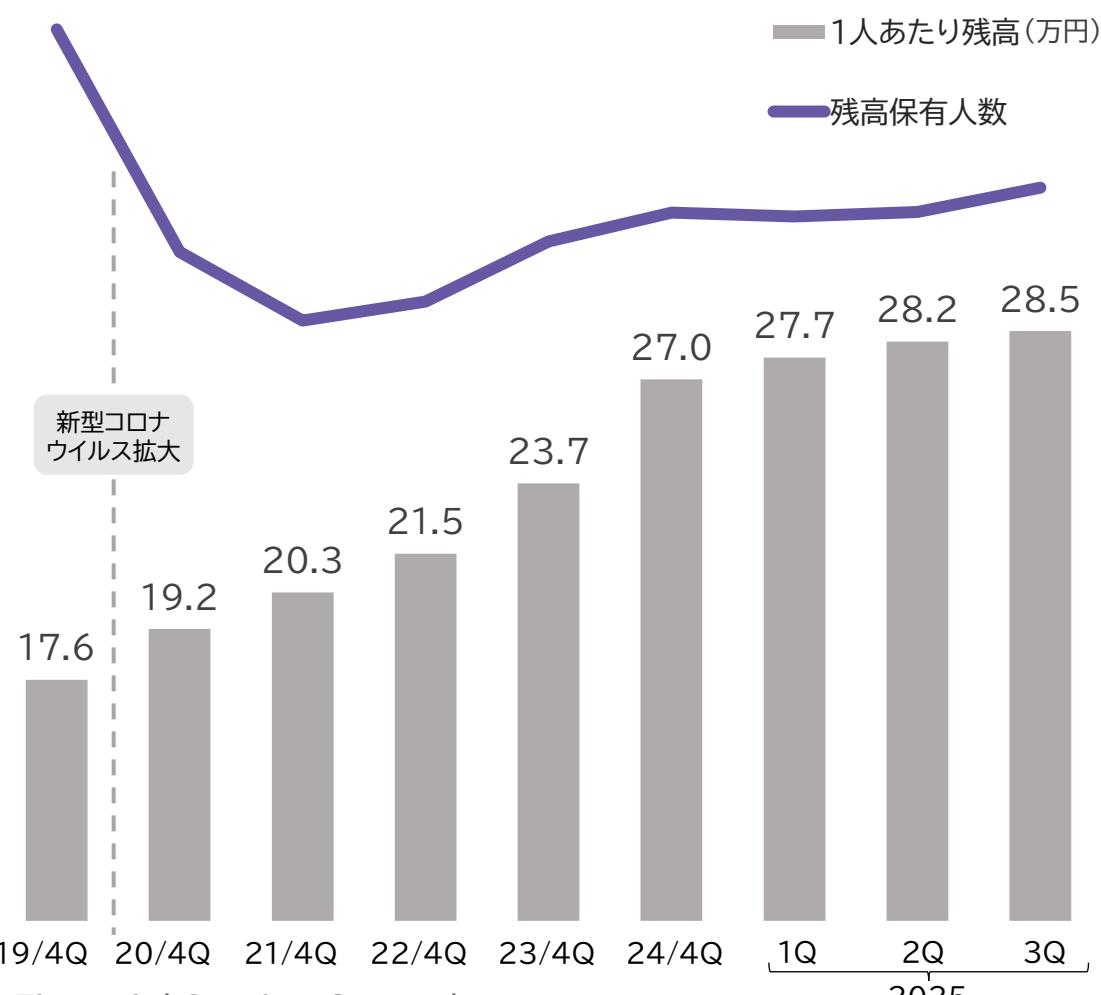
[国内] AEON Payを軸とした基盤拡大

- ・12月より、カード保有者へのAEON Pay登録導線を改善 会員数が拡大
- ・26年度にはアプリをイオンウォレットから「AEON Pay」に改め、ニーズに即した機能・体験を提供

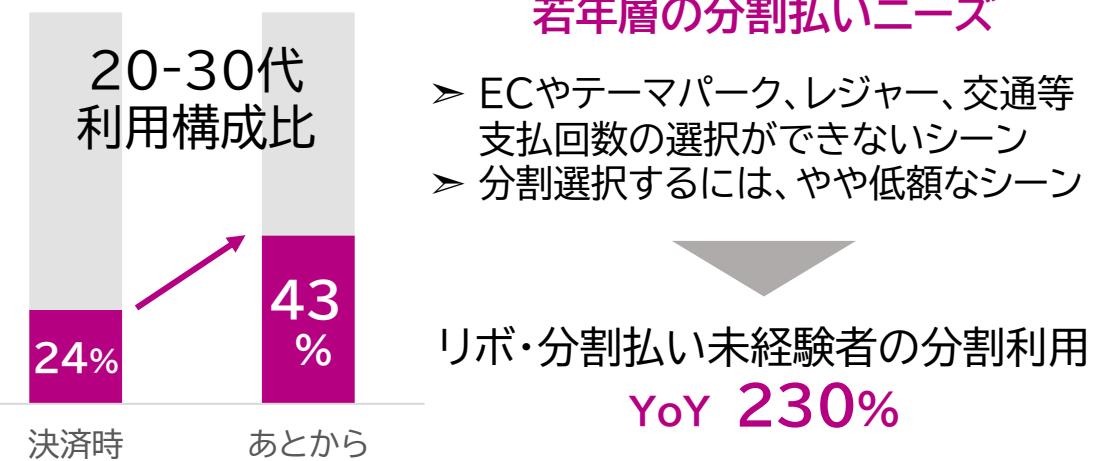


[国内] リボ・分割払い残高の拡大

- “あとから分割払い”機能搭載により、若年層を中心に新規利用者が拡大
- 支払回数の選択ができないシーンでの“あとから”ニーズに応え、分割払い利用額が倍増(9-11月)



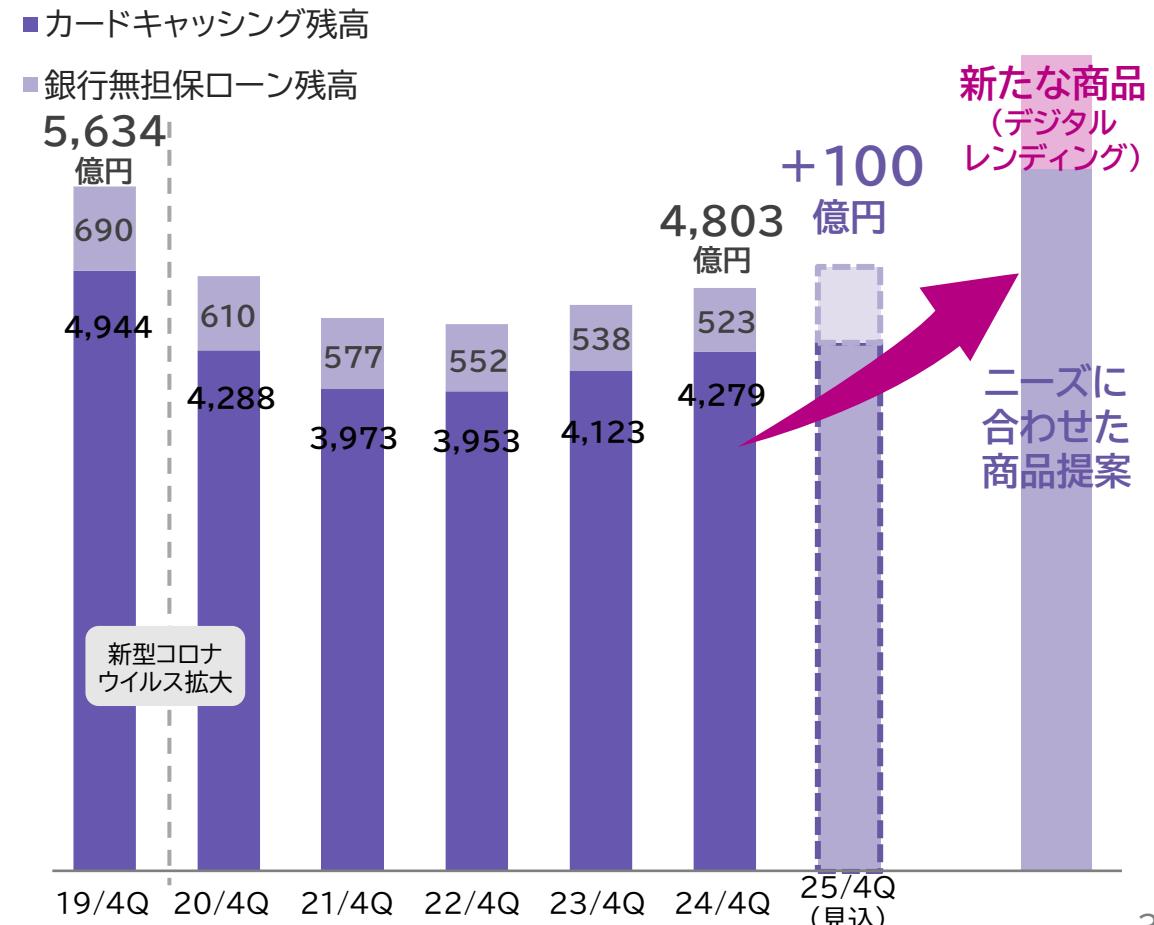
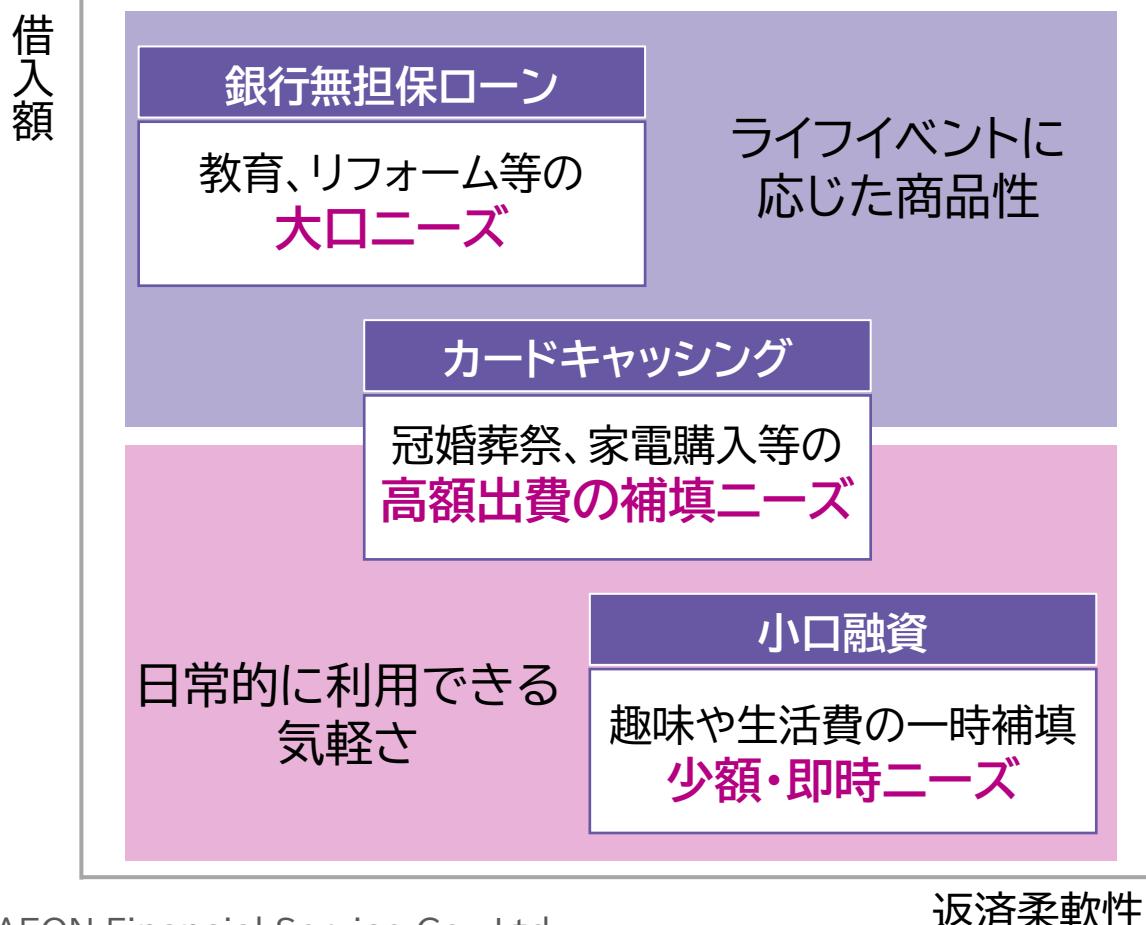
分割払い 前年同期比較 (2025年9-11月)



[国内] 融資事業の拡大

- お客さまニーズに合わせた商品設計を実現し、キャッシングに加え無担保ローン残高を拡大
- 少額・即時ニーズに応える新たな融資商品の提供による、さらなる融資収益拡大を目指す

お客さまニーズに合わせた商品設計



[国際] 各国の取り組み

- ・ベトナムではPTF社の社名を変更し、イオンブランドでの拡大を図る
- ・AEON Bank(マレーシア)では、新たに事業者向けサービスを開始



ベトナム

■ PTF社の社名変更

旧社名

Post and Telecommunication Finance Company Limited

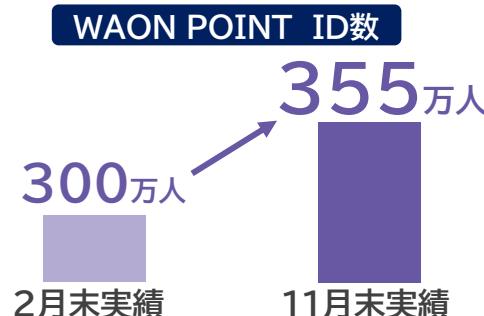


新社名

AEON Consumer Finance Company Limited.

イオンブランドを冠し、よりグループシナジーを追求

■ 顧客基盤の強化



イオングループの展開拡大

- ・10月
イオンタンアンショッピングセンター
イオンベトナム初のショッピングセンター業態
- ・12月
イオンベータビンコム スマートシティ
イオンエンターテイメント初の海外シネコン



マレーシア

■ 事業者向けサービスの開始



AEON Bank

- 事業者向け口座開設開始(25年8月)
- 事業者向け融資開始(26年1月予定)



※運営:イオンマレーシア



売掛金受取口座

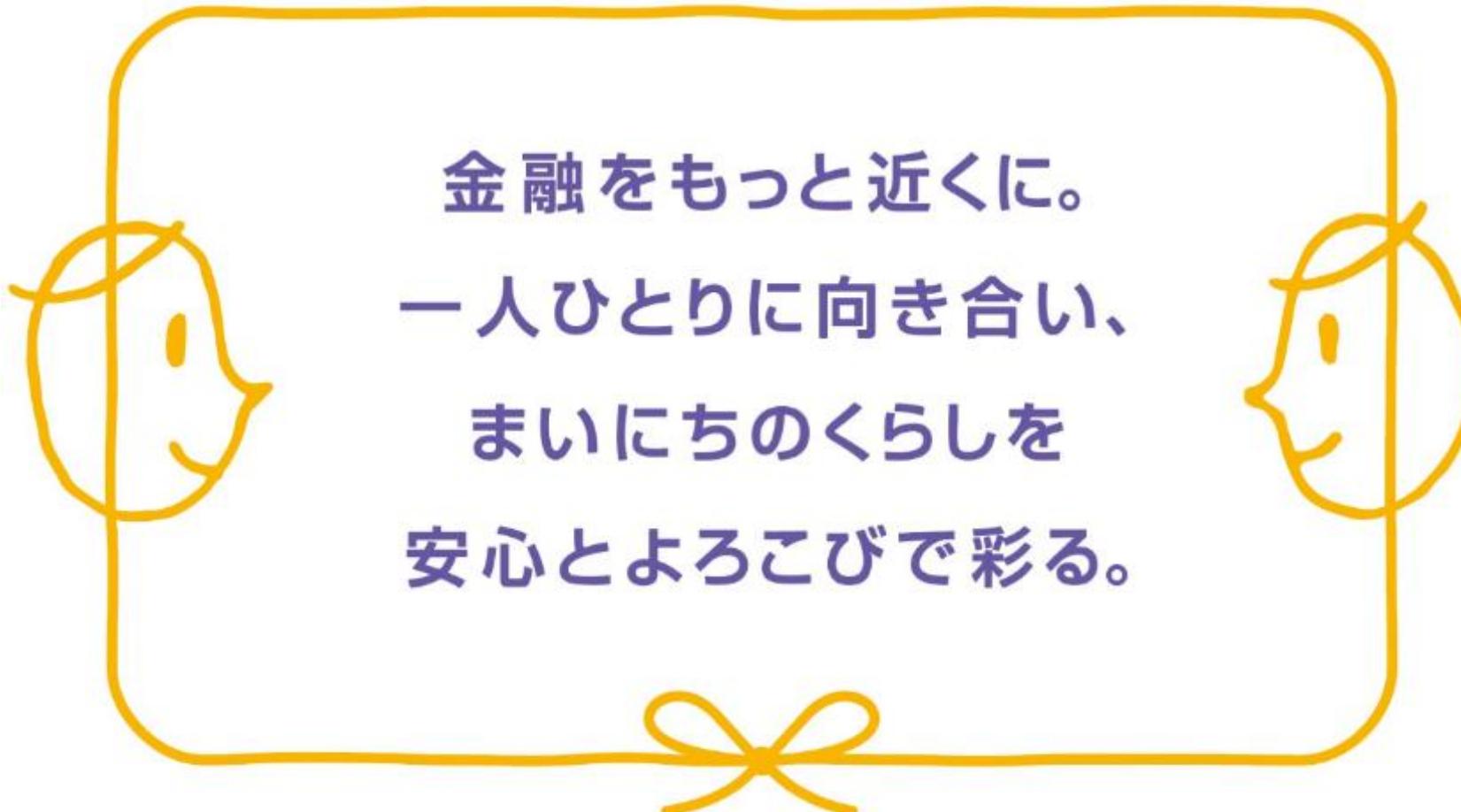
イオン向け支払口座

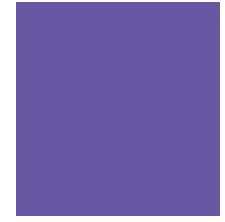
テナント料の引落口座

加盟店の精算口座

イオングループと取引のある加盟店・中小事業者との関係を通じ
運転資金融資・売掛金担保融資につなげる

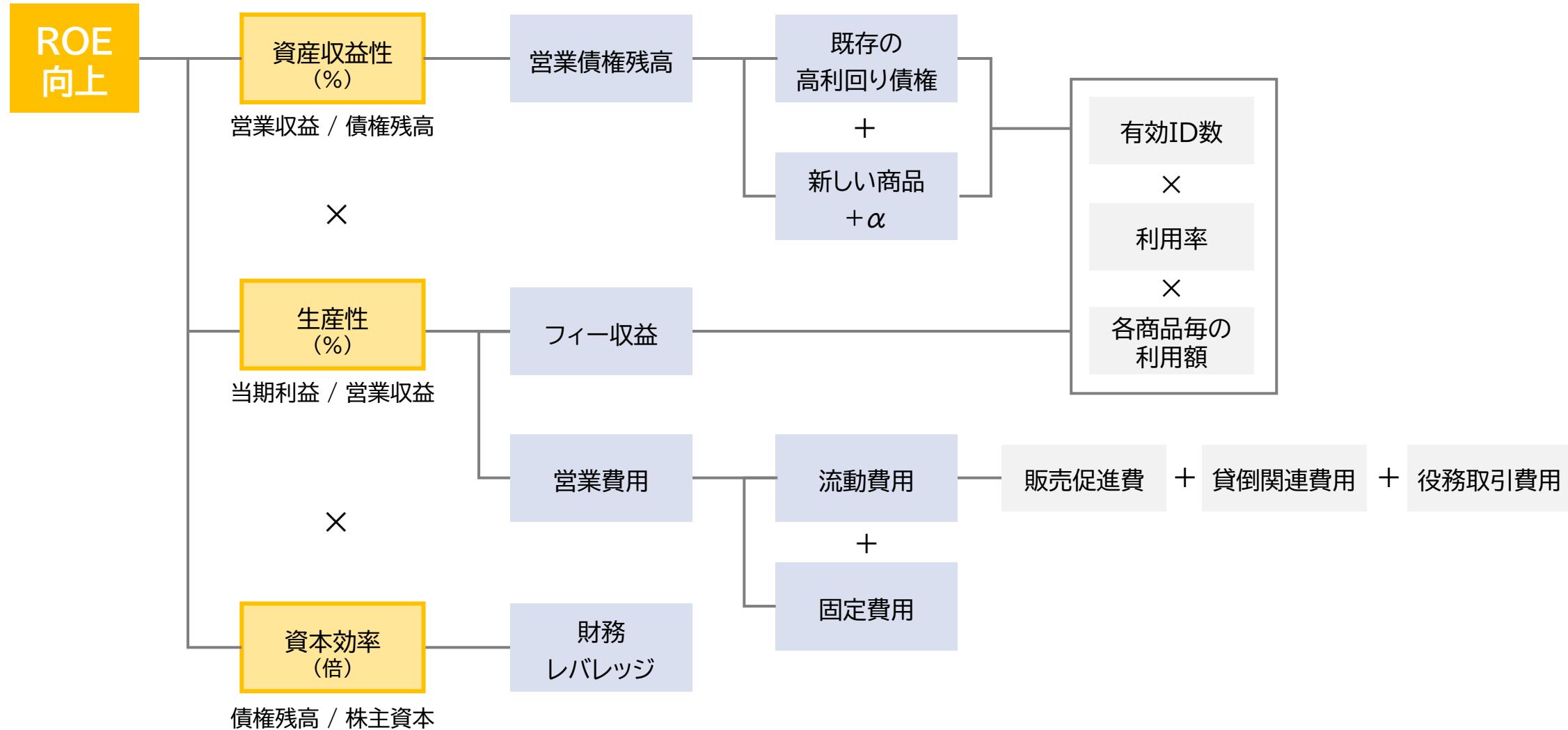
Our Purpose





Appendix

[再掲] ROE向上に向けた考え方



2025年度 KPI進捗

- ・イオン生活圏の拡大による資産収益性・生産性向上を通じ、持続的なROEの向上を目指す

方針	国内KPI			
	指標	25年度目標	3Q実績	進捗
「イオン生活圏」拡大による規模の経済発揮	AEON Pay利用可能場所	+100万箇所	+73万箇所	73%
残高の拡大・利回り改善	高利回り債権残高	+550億円	+526億円	96%
各商品の取扱高拡大	自社決済取扱高 カード:8兆円 電子マネー:2兆円	10兆円(+0.5兆円)	7.3兆円 カード:5.8兆円 電子マネー:1.5兆円	74%
	銀行預金残高	+ 5,000億円	+ 2,686億円	54%

[国内] 顧客基盤

国内有効ID

3,840万人

(YoY+263万人、期首差+225万人)



AEON Pay会員数

カード会員数 ※1

イオン銀行口座数

電子マネーWAON ※2



1,030万人

(期首差+214万人)



2,657万人

(期首差+41万人)



887万人

(期首差+12万人)



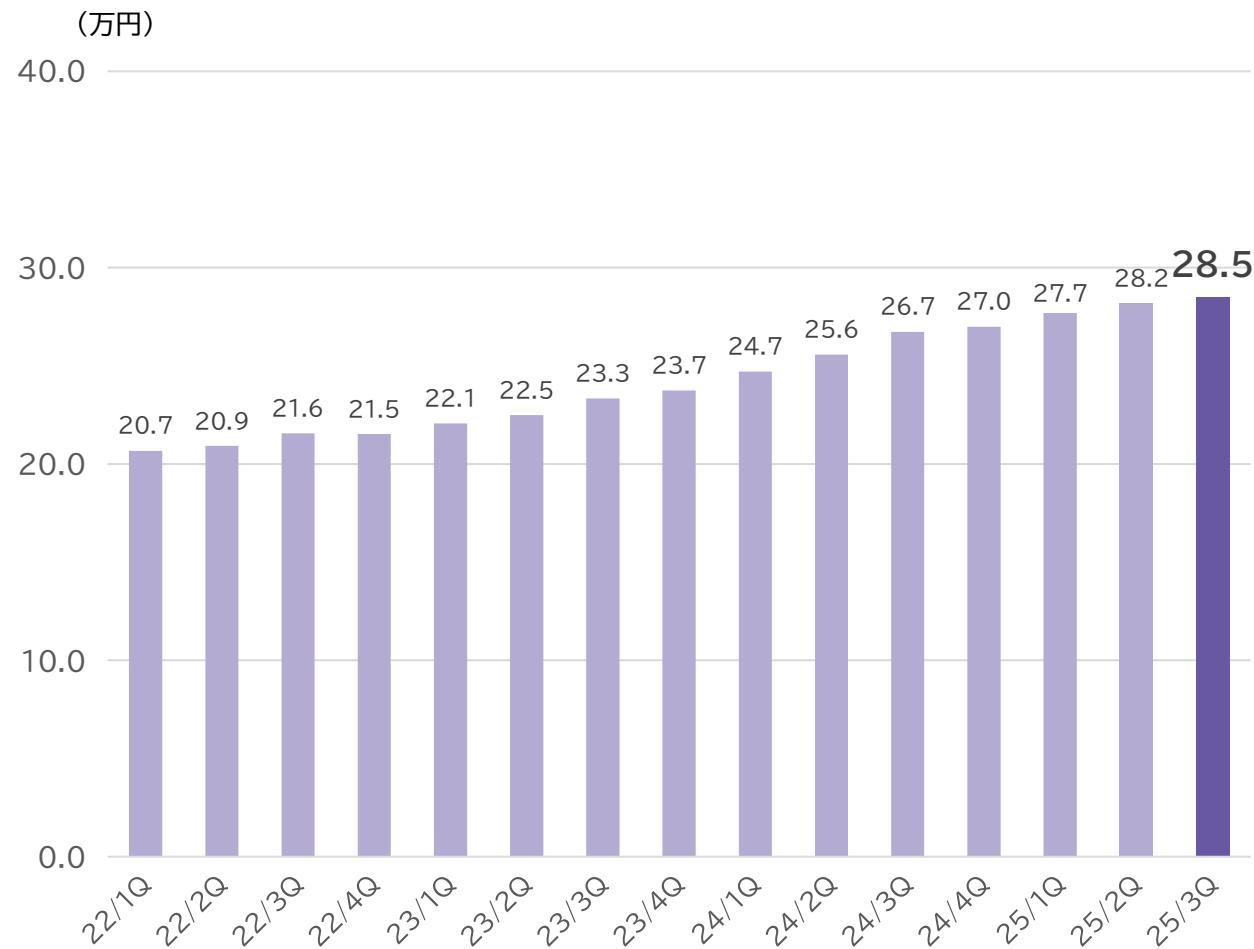
606万人

(期首差+55万人)

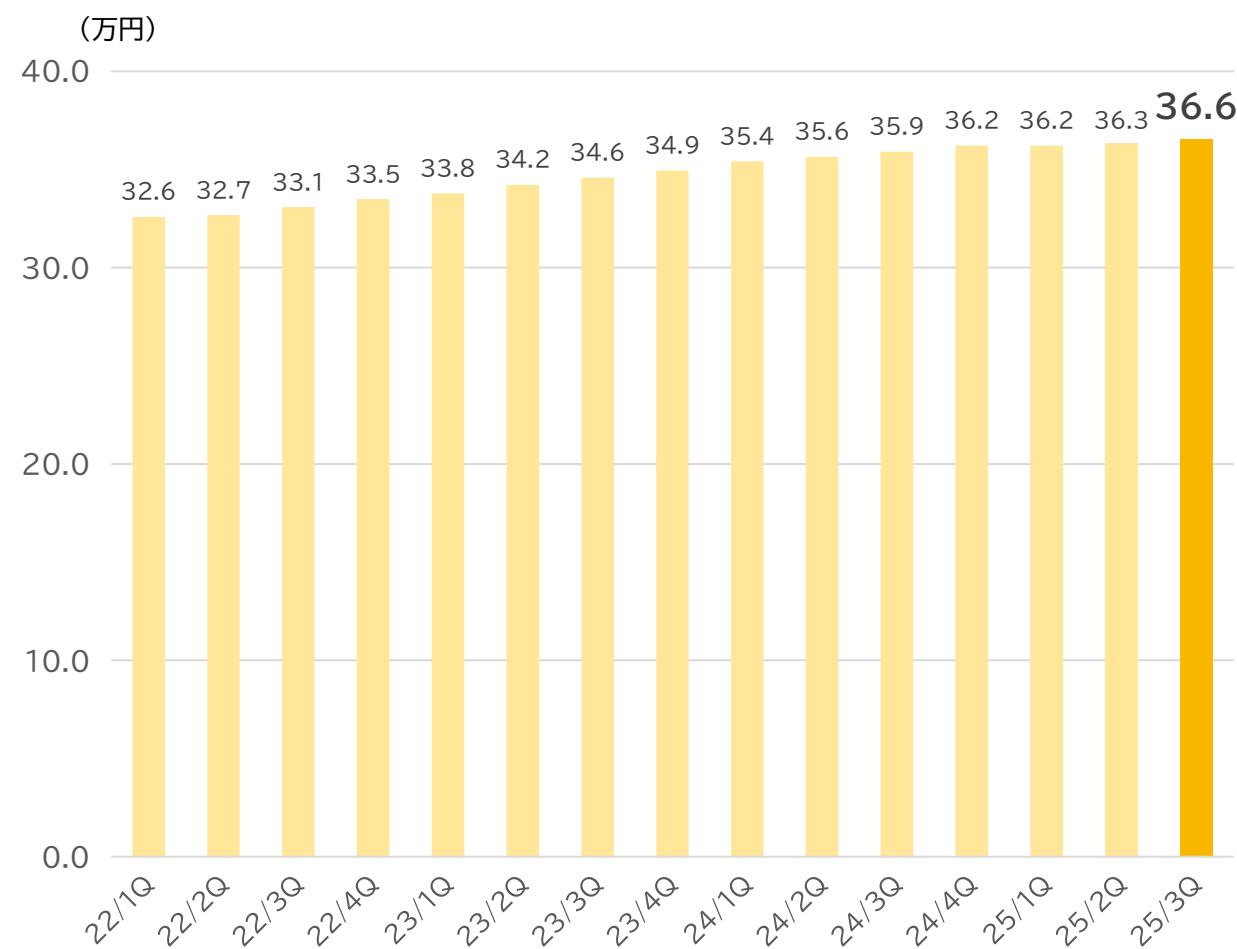
*電子マネーWAON累計発行枚数 1億940万枚

[国内] 1人あたり債権残高の推移

| ショッピングリボ・分割払い債権



| キャッシング債権



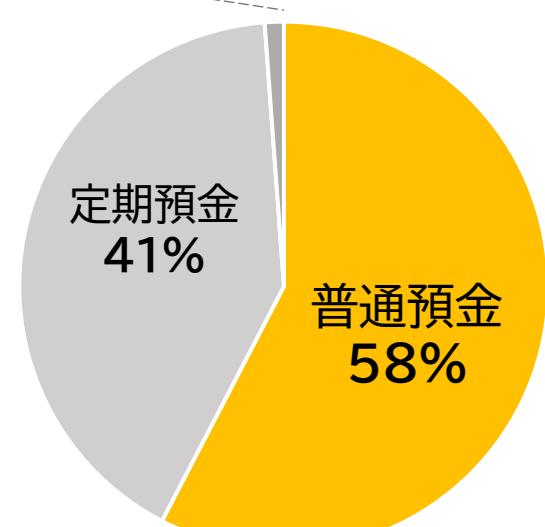
[国内] 第3四半期 バランスシートの状況

- ・国内調達の大半は銀行預金 普通預金構成比を拡大することで調達コストの低減を図る
- ・資産における高利回り債権※の構成比を高め、資産収益性を高める

貸出金	平均利回り*1
住宅系ローン *2 (44%)	1.26% (YoY+0.42pt)
キャッシング (14%)	15.03% (YoY+0.14pt)
法人融資 (10%)	1.58% (YoY+0.14pt)
無担保ローン (2%)	9.01% (YoY+0.06pt)
割賦売掛金	
リボ・分割 (21%)	15.43% (YoY+2.98pt)
()は期末時点の貸出金または割賦売掛金に占める構成比	
有価証券	
銀行業における有価証券	1.75% (YoY+0.22pt)



※高利回り債権:リボ・分割、キャッシング、無担保ローン



平均預金金利 *1
0.39%
(YoY+0.21pt)

国内セグメントにおける取引の一部変更影響

- WAONバリュイシュア事業取得と内部取引の一部見直しにより、ABK(リテール)ーAFS(ソリューション)間の収益・費用の計上が一部変更 セグメント間での計上変更であり、国内営業利益には影響なし

	(単位:億円)	リテール			ソリューション	
		リテール	前年同期比		ソリューション	前年同期比
収益	包括信用購入あっせん	477	+293	加盟店手数料 配賦割合の変更	収益減	320 ▲248
	個別信用購入あっせん	1	+0			0 +0
	融資収益	494	+18			4 ▲1
	償却債権取立益	0	+0			4 +1
	金融収益	485	+139			12 +8
	保険収益	44	▲55	WAONバリュイシュア事業 (ABK保有分)	収益増	- -
	役務取引等収益	235	▲4	費用減	1,007 +253	
	その他	94	▲7	費用増	55 +14	
費用	金融費用	215	+161	計上基準の見直し(内部取引) ※連結調整により連結・国内影響なし		20 +2
	保険費用	37	▲56			- -
	役務取引等費用	804	+195	費用増	1 ▲0	
	販管費	729	+137	国際ブランド手数料計上の変更 旧:AFS(ソリューション)、新:ABK(リテール)	費用減	1,256 ▲57
	その他	2	+1			25 +4

海外上場3社 業績（現地通貨）

		FY 2024	FY 2025	
		3Q累計実績	3Q累計実績	YoY
AEON CREDIT SERVICE (ASIA)	Revenue	1,304,551	1,358,074	104%
	Profit before tax	328,748	424,473	129%
	HK\$' 000 Profit for the period	275,307	352,703	128%
AEON THANA SINSAP (THAILAND)	Revenue	16,747,306	16,216,541	97%
	Profit before tax	2,644,652	2,801,130	106%
	BAHT' 000 Profit for the period	2,191,205	2,235,715	102%
AEON CREDIT SERVICE (M)Berhad	Revenue	1,625,683	1,840,212	113%
	Profit before tax	333,811	337,503	101%
	RM' 000 Profit for the period	239,644	240,159	100%

海外上場3社 業績（円換算）

		FY 2024	FY 2025		為替レート
		3Q累計実績	3Q累計実績	YoY	
AEON CREDIT SERVICE (ASIA)	Revenue	254億円	258億円	102%	為替 (円 / HKD) • FY2024Q3 : 19.49円 • FY2025Q3 : 19.06円
	Profit before tax	64億円	80億円	126%	
	Profit for the period	53億円	67億円	125%	
AEON THANA SINSAP (THAILAND)	Revenue	721億円	732億円	102%	為替 (円 / THB) • FY2024Q3 : 4.31円 • FY2025Q3 : 4.52円
	Profit before tax	113億円	126億円	111%	
	Profit for the period	94億円	101億円	107%	
AEON CREDIT SERVICE (M)Berhad	Revenue	543億円	641億円	118%	為替 (円 / MYR) • FY2024Q3 : 33.46円 • FY2025Q3 : 34.87円
	Profit before tax	111億円	117億円	105%	
	Profit for the period	80億円	83億円	104%	

国際事業の各種取扱高、債権残高の状況

(単位:億円)	中華圏(香港)		メコン圏(タイ)		マレー圏		国際事業	
		前年同期比 (増減)		前年同期比 (増減)		前年同期比 (増減)		前年同期比 (増減)
クレジットカード	取扱高	2,041	104%	2,256	85%	729	163%	5,027
	債権残高	1,178	+120	1,685	+32	439	+105	3,302
個品割賦	取扱高	-	-	220	106%	1,050	100%	1,270
	債権残高	-	-	492	+124	3,616	+601	4,109
個人ローン	取扱高	212	86%	771	86%	626	108%	1,610
	債権残高	333	+8	1,987	+154	1,850	+419	4,171
合計	取扱高	2,253	102%	3,247	86%	2,406	116%	7,908
	債権残高	1,512	+130	4,165	+312	5,906	+1,125	11,583
								+1,568

バランスシートの状況

(単位:億円)	FY 2025			FY 2025	
	3Q実績	期首増減		3Q実績	期首増減
現金預け金	5,380	▲ 2,767	預金	54,795	+2,733
営業貸付金	10,735	+935	買掛金	5,122	+1,944
銀行業における 貸出金	27,551	+846	有利子負債 (預金除く)	14,058	+965
割賦売掛金	20,144	+2,670	その他	3,325	▲ 48
貸倒引当金	▲ 1,356	▲112	負債合計	77,301	+5,594
その他	20,925	+4,241	純資産合計	6,078	+221
資産合計	83,380	+5,815	負債及び 純資産合計	83,380	+5,815

セグメント別業績

(単位:億円)	国内計			国際計 ※				連結計 ※
	※	リテール	ソリューション		中華圏	メコン圏	マレー圏	
営業収益	2,483	1,834	1,404	1,752	263	747	740	4,215
前期比	110%	127%	102%	110%	101%	104%	111%	108%
営業利益	136	44	100	279	81	109	89	417
前期比	111%	45%	453%	110%	127%	106%	102%	110%
営業利益率	5.5%	2.4%	7.2%	15.9%	30.8%	14.6%	12.1%	9.9%
前期差	+0.1pt	▲4.4pt	+5.6pt	+0.5pt	+6.1pt	+0.3pt	▲1.1pt	+0.1pt

(参考) 債権流動化による収益影響 79 億円 (前期差+1億円)

※ 国内計及び国際計は、各事業に属するセグメント間取引の相殺消去後であり、連結計には、本社・機能会社および連結消去額を含む

エリア別業容

(単位:億円)		取扱高	前年同期比	営業債権残高 (流動化前)	期首増減
国内	クレジットカード	61,656	105%	20,327	+1,723
	ショッピング (うちリボ・分割)	58,717	106%	15,864	+1,539
	キャッシング	-	-	3,945	+330
	住宅ローン	2,939	102%	4,463	+184
	その他	3,451	76%	40,178	+1,531
	国内計	-	-	12,473	▲407
国際	クレジットカード	5,027	99%	3,302	+292
	ショッピング	3,589	95%	1,737	+176
	キャッシング	1,437	100%	1,565	+115
	個品割賦	1,270	101%	4,109	+653
	パーソナルローン	1,610	93%	4,171	+399
	その他	-	-	16	+11
	国際計	-	-	11,600	+1,357

セグメント別貸倒及び国内利息返還損失引当金の状況

【貸倒引当金】

(単位:億円)	国内計	リテール	ソリューション	国際計	中華圏	メコン圏	マレー圏	連結計
期首貸倒引当金残高	572	17	559	663	50	329	283	1,244
貸倒関連費用 (引当金繰入・損失)	204	2	202	573	58	260	254	777
貸倒償却額 (移管債権等含む)	226	0	225	439	57	188	193	677
期末貸倒引当金残高	550	19	537	797	52	400	344	1,344

※参考 国内子会社の期末残高

<リテール> イオン銀行: 19億円
 <ソリューション> イオンフィナンシャルサービス: 530億円
 イオン住宅ローンサービス: 10億円

【利息返還損失引当金】

(単位:億円)	FY2024 3Q実績	FY2025 3Q実績
期首残高	25	9
繰入額	-	-
利息返還額	13	3
期末残高	11	5

イオン銀行の業務改善命令への対応進捗

- ・イオン銀行における改善計画は遅滞なく進捗
- ・対応完了の項目においても外部サービス導入等の運用高度化を継続し、態勢強化に取り組む

業務改善命令の内容

マネロン・テロ資金供与対策を重視する健全なリスクカルチャーを醸成し、実効性のあるマネロン・テロ資金供与リスク管理態勢を構築するとともに、疑わしい取引の届出に関する適切な業務運営の構築

対応事項

1 マネロン・テロ資金供与対策に関するガバナンス強化

2 疑わしい取引の届出業務を適時・適切に行うための態勢構築

3 取引モニタリングシステムで検知したにもかかわらず、
疑わしい取引に該当するか否かの判断を行わず放置した
取引への対応

4 ガイドライン未了事項の早期解消

5 新システムの早期リリース及び業務運営の開始

業務改善計画の進捗状況の詳細は
イオン銀行ウェブサイトに掲載しております
<https://www.aeonbank.co.jp/company/release/2025/>

3Qにおける主な進捗

ガバナンス強化

- ・経営陣の現場把握に対する仕組みの有効性検証を実施(9月)
- ・年間計画に基づき、マネロン等対策担当部署及びリスク管理担当部署による有効性の検証を継続して実施(11月)

態勢構築

- ・KRIの実績・推移を月次で報告し、検証する運用を継続(1月～)
- ・監査部によるフォローアップを実施(9月)

教育/研修

- ・プログラムに基づく研修を実施
 - ▶ 主管部署向け研修(10月)
 - ▶ 全従業員向け研修(11月)

本資料のうち、当社の将来的な経営戦略や営業方針、業績予測等にかかるものは、いずれも現時点において当社が把握している情報に基づいて想定、算出されたものであり、経済動向、業界での競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度等に関わるリスクをはじめとする様々な不確実要素を含んでおります。従って、将来、実際に公表される業績等はこれらの種々の要素によって変動する可能性があります。



イオンフィナンシャルサービス